

QRコードから 大迫力のドローン映像が見られます

新思惟大橋(仮)



釜石JCT



気仙沼湾横断橋



伊達桑折・伊達中央IC



完成直前特別番組&テレビCM

特別番組



テレビCM東北編



三陸エリアと 復興道路

復興・復興支援道路 いよいよ 全長570kmの道路網 全線開通へ
震災・復興10年 進もう! 次の東北へ



三陸エリアと 復興道路



2011年3月11日。

突如として襲った大地震・大津波が、三陸沿岸エリアから、生活や産業の基盤、そして、多くの尊い命を奪い去りました。千年に一度と言われる「東日本大震災」でした。

震災からわずか8か月。

国土交通省では、復興のリーディングプロジェクトとして、八戸から仙台までの沿岸軸を結ぶ三陸沿岸道路「復興道路」と4本の東西横断軸「復興支援道路」の整備を決定し、約570km(震災時の開通済みを除くと残り約410km)の高速道路を10年で全線開通させることを目標に掲げました。

それからの10年。

各現場では急ピッチで工事が進められる一方、想定外の現場条件や自然災害など幾多の困難にもみまわれました。

そして、2021年3月6日。

宮城県内の復興道路は全線開通を果たし、残る復興道路・復興支援道路もまもなく全線開通を迎えようとしています。

本パンフレットは、震災から10年の節目に、

これまでの復興道路と三陸沿岸エリアの歩みをまとめたものです。これから先、復興道路・復興支援道路が、東北のさらなる復興に向けて、たくさんの方々に活用されることを願っています。

2021年3月
国土交通省 東北地方整備局
仙台河川国道事務所

目次

1	三陸という地域	1
2	東日本大震災	3
3	くしの歯作戦	5
4	復興道路、始動	7
5	三陸沿岸道路と東北の主なできごと	9
6	三陸沿岸エリアの交通流動の変化	11
7	データで見る三陸沿岸エリア	13
8	復興道路がもたらす整備効果	15
	・水産業を応援する復興道路	
	・農畜産業を応援する復興道路	
	・観光を応援する復興道路	
	・企業活動を応援する復興道路	
	・復興まちづくりを応援する復興道路	
	・災害時でも強靱な復興道路	
	・救急医療を応援する復興道路	
	・高速バスや新幹線、道の駅と連携する復興道路	
9	沿線のリーダーたちの声	35
10	沿線の100人の声	37

復興道路「三陸沿岸道路」宮城県内126km



※津波浸水区域は H23.3.11
 ※人口は、平成 28 年 10 月 26 日公表
 「平成 27 年国勢調査人口等基本集計結果」
 ※交通量は平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査 (台/日)
 「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平29情使、第1380号)」

国土開発幹線自動車道		一般国道自動車専用道路等		地域高規格道路		一般国道(指定区間)	
2車線・4車線	開通済	2車線・4車線	開通済	2車線・4車線	開通済	2車線・4車線	一般国道(指定区間)
2車線・4車線	事業中	2車線・4車線	事業中	2車線・4車線	事業中	2車線・4車線	一般国道(指定区間外)
4車線化事業中		4車線化事業中		4車線化事業中		4車線化事業中	主要地方道
							津波浸水区域

事業計画概要(仙台市～気仙沼市)

道路網	三 陸 縦 貫 自 動 車 道																																														
	仙塩道路 7.8km		仙台松島道路 18.3km				矢本石巻道路 26.5km			桃生登米道路 13.8km	登米志津川道路 16.1km	南三陸道路 7.2km	歌津本吉道路(歌津～本吉) 12km	本吉気仙沼道路(Ⅱ期) 4.0km	本吉気仙沼道路 7.1km	気仙沼道路(気仙沼～唐桑南) 9km	唐桑道路 3.0km	唐桑高田道路(唐桑北～陸前高田) 10km																													
事業主体	国土交通省 7.8km		宮城県道路公社 18.3km				国土交通省 12.4km			国土交通省 209.6km																																					
IC名	仙台市 仙台港北IC	多賀城市 多賀城IC	利府JCT	利府塩釜IC	利府町 利府中IC	松島町 松島海岸IC	松島町 松島大堰IC	松島町 松島北IC	鳴瀬町 鳴瀬奥松島IC	東松島市 矢本IC	石巻市 石巻港IC	石巻市 石巻河内IC	石巻市 石巻女川IC	石巻市 石巻河北IC	桃生町 桃生豊里IC	桃生町 桃生津山IC	登米市 登米IC	登米市 登米東和IC	三滝町 三滝山IC	志津川IC	南三陸町 南三陸海岸IC	歌津IC	歌津北IC	小泉海岸IC	本吉津谷IC	大谷海岸IC	若井崎IC	気仙沼市 気仙沼中央IC	気仙沼IC	陸前高田IC	陸前高田IC	陸前高田IC															
アクセス道路	一般国道45号	① 泉塩増設線	② 仙台北部道路	③ 塩釜釜石間線	④ 利府中1線	⑤ 赤沼松島線	⑥ 大和松島線	⑦ 一般国道346号	⑧ 一般国道45号	⑨ 矢本河内線	⑩ 石巻港IC線	⑪ 石巻河内線	⑫ 石巻女川線	⑬ 一般国道45号	⑭ 一般国道45号	⑮ 一般国道45号	⑯ 一般国道399号	⑰ 一般国道399号	⑱ 一般国道399号	⑲ 一般国道45号	⑳ 一般国道45号	㉑ 一般国道45号	㉒ 一般国道45号	㉓ 一般国道45号	㉔ 一般国道45号	㉕ 一般国道45号	㉖ 一般国道45号	㉗ 一般国道45号	㉘ 一般国道45号	㉙ 一般国道45号	㉚ 一般国道45号	㉛ 一般国道45号	㉜ 一般国道45号														
都市計画決定	S58.12.16(H5.3)(変更)		S61.5.23				S61.5.23(H5.3)(変更)			H5.3.30		---		---		---		H18.4.21		---		---		---		---		---		---		---															
環境アセスメント	H5.3.30		---				H5.3.30			H2.11.16		H8.12.19		H11.5.17		---		---		---		---		---		---		---		---		---															
整備計画決定(整備区間指定)	H1.8.8		H1.8.8				H3.12.3			H9.2.5		H12.4.3		H21.3.13		H24.4.17		H24.4.17		H24.4.17		H24.4.17		H14.4.26		H24.4.17		---		---																	
事業化	H23 4車線化事業化		H20 4車線化事業化				H24 4車線化事業化			H23 4車線化事業化		H5		H6		H20		H23		H23		H18		H23		H14		H23		---		---															
開通	H9.3.27		S61.9.27				S57.10.2			H5.3.25		H10.3.20		H15.12.14		H19.6.9		H21.3.22		H22.3.22		H28.4.16		H28.10.30		H29.3.20		H29.12.9		H31.2.16		R2.11.21		H31.2.16		H30.3.25		R2.2.24		R3.3.6		H22.12.19		H31.3.21		H30.7.28	
4車線開通	H28.3.27		H24.7.12				H26.3.25			H27.3.30		H27.3.31		H29.3.30		---		---		---		---		---		---		---		---		---		---		---		---		---							

自然の恩恵豊かな 3つの“陸”からなる「三陸」

「三陸」は、明治時代の地域の名称である陸奥・陸中・陸前（現在の青森県・岩手県・宮城県の一部）の三国の総称です。親潮・黒潮・津軽暖流がぶつかる潮目であることに加え、リアス海岸や多くの島々の点在が魚の絶好の住処となり、世界三大漁場のひとつとなっています。また、リアス海岸特有の海岸地形は風光明媚な景観を生み出しています。



写真提供:大船渡市



写真提供:宮城県観光課

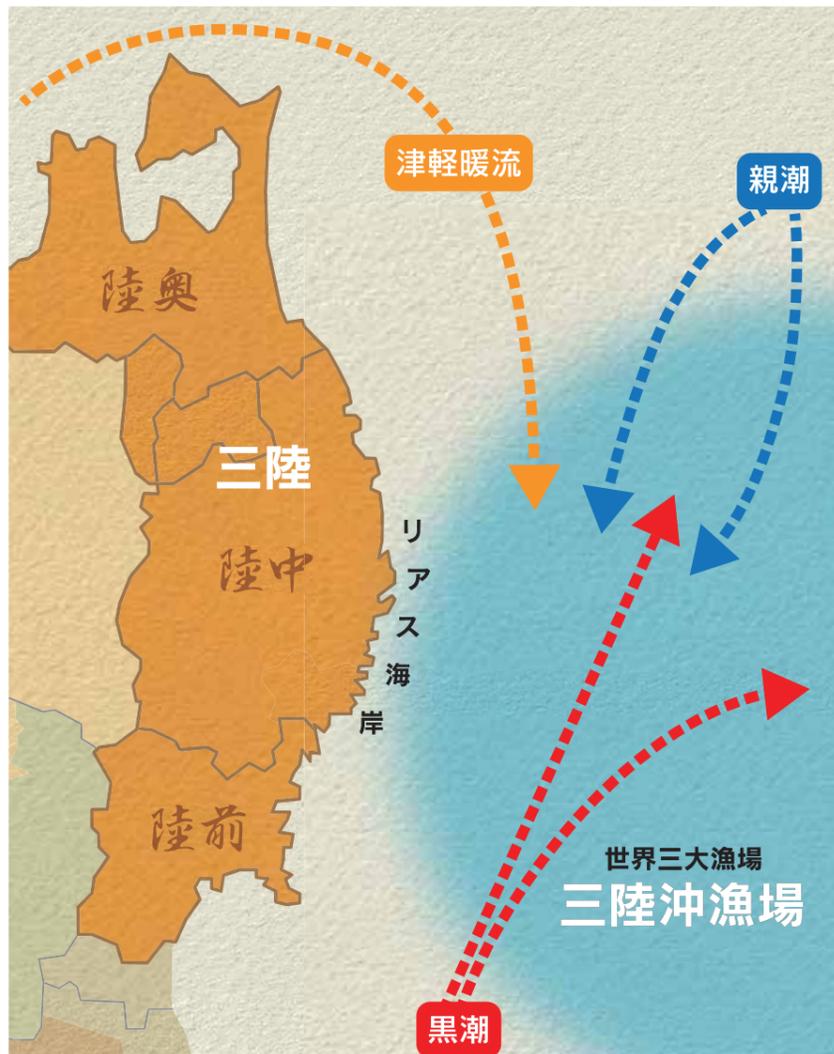


種差海岸



かき

写真提供:宮城県観光課



サンマの水揚げ

写真提供:宮城県観光課



ほや

写真提供:宮城県観光課

度重なる 大地震や津波

豊かな海の恵みがある一方で、三陸は何度となく、大地震と津波に見舞われてきました。

869年 貞観津波

死者:1,000人

1611年 慶長津波

死者・行方不明者:1,787人

1896年 明治三陸津波

最大津波遡上高:38.2m

死者・行方不明者:21,959人

1933年 昭和三陸津波

最大津波遡上高:28.7m

死者・行方不明者:3,064人

1960年 チリ地震津波

最大津波遡上高:6.3m

死者・行方不明者:142人

うたつむら なにがし かいしょう あ
歌津村の某、婚礼を行う時、海嘯に遭うの図(明治三陸津波)



出典:風俗画報120号(明治大学図書館所蔵)



両石津波記念碑

国土交通省
東北地方整備局資料



昭和三陸津波の惨事を伝える記事

記事提供/河北新報社 1933年(昭和8年)3月5日朝刊



チリ地震津波の惨事を伝える記事

記事提供/河北新報社 2020年(令和2年)5月23日朝刊

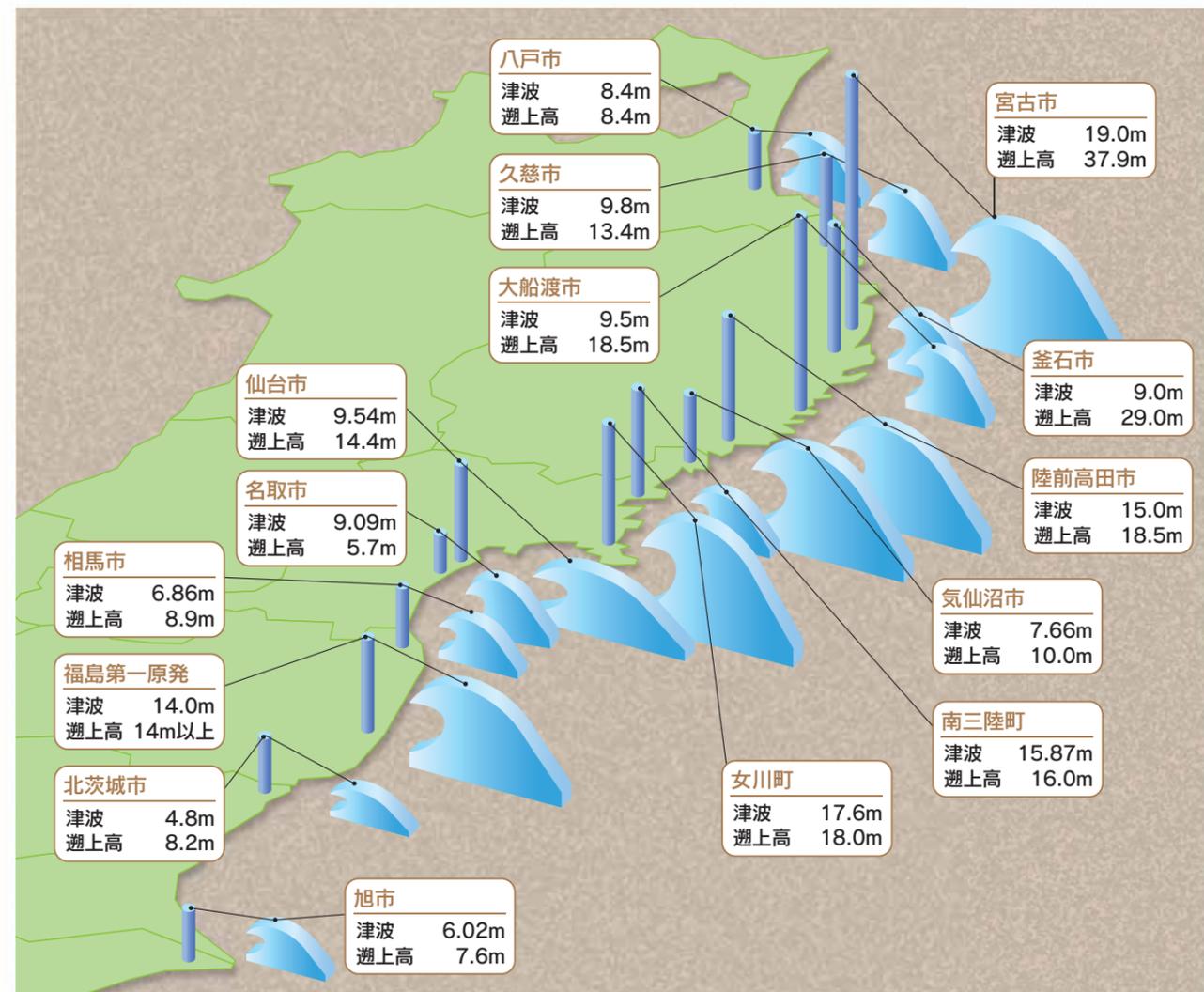
チリ地震津波 あす60年



前触れなく犠牲多数

2011年3月11日 東日本大震災発生

死者・行方不明者2万人を超える国内史上最大、20世紀以降世界で4番目の規模となった東日本大震災。リアス海岸(岩手県宮古湾～宮城県牡鹿半島)では、そのV字型の湾の奥に波が集中することで、遡上高がさらに高くなり、岩手県宮古市で**37.9m**など各地で過去にない津波の遡上高が確認されました。



各地の被災状況(宮城県)

写真提供:一般社団法人 東北地域づくり協会

宮城県
気仙沼市



2007年5月撮影



2011年3月28日撮影

宮城県
南三陸町志津川



2001年5月撮影



2011年3月28日撮影

宮城県
石巻市旧北上川河口



2001年9月撮影



2011年4月5日撮影

宮城県
女川町



2002年8月撮影



2011年4月5日撮影

宮城県
東松島市大曲



2003年8月撮影



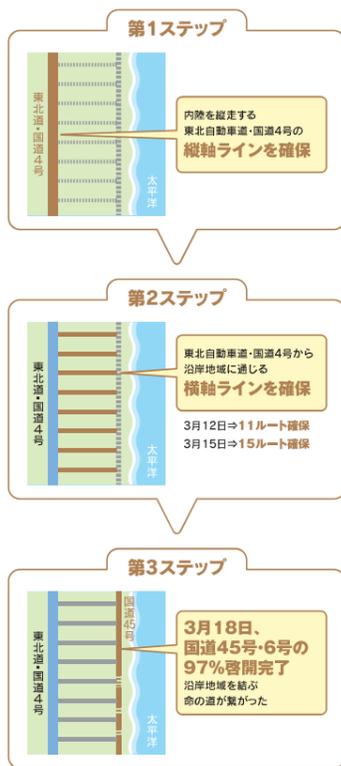
2011年6月9日撮影

	死者	行方不明者	建築物被害 (2020年3月時点)			避難者数 2012年6月 (最大)	被害推計額 (2011年 6月時点)
			全壊・半壊	一部破損	計		
岩手	5,144人	1,112人	2.6万戸	1.9万戸	4.5万戸	4.3万人	-
宮城	10,566人	1,219人	23.8万戸	22.4万戸	46.2万戸	12.8万人	-
福島	3,904人	224人	9.8万戸	14.1万戸	23.9万戸	10.1万人	-
全国	19,729人	2,559人	40.5万戸	74.8万戸	115.3万戸	34.7万人	約16兆9千億円

資料:R2年版消防白書、環境省、復興庁

「命の道」を切り啓く 道路啓開「くしの歯作戦」

津波により橋の流出や流出した建物などが道路をふさぐなどにより、被災地域の孤立が発生しました。救援隊や支援物資を被災地に届けるため、内陸部を南北に貫く東北縦貫自動車道と国道4号から沿岸部に「くしの歯」のように伸びる何本もの国道のがれき撤去などが進められました。この「くしの歯作戦」は国土交通省、地域の建設業者、自衛隊、警察などが一体となって取組み、震災発生から一週間で救援のための道が切り啓されました。



国道45号の被災状況



体を張った地元建設会社 29社から52チームが集結

「やんなきゃなんねえな」と思ったんです。「これは、誰かがやんなきゃなんねえことなんだ」って。

「ここを通して宮古病院や田老に国道をつなげたい。道がなければ病院にも行けない」とBは言ったのだ。作業員のCは思った。これは、どうしても誰かがやらなければならないことなんだ、と。そして、バックホウのエンジンをかけて土砂で真っ黒になった国道45号に降りる…。緊張で胸が押しつぶされそうだった。「生きている人がこの中にいたら…」。

資料：東日本大震災津波伝承館



一面のガレキから、「道」を啓く

ガレキに覆われた国道
(岩手県陸前高田市)



啓いた後の国道
(岩手県陸前高田市)



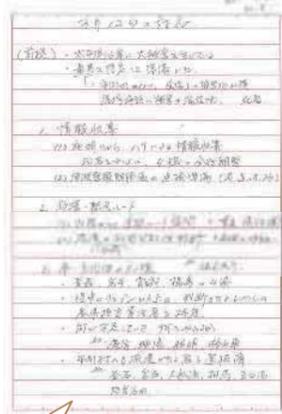
資料：東日本大震災津波伝承館

3月11日 22:00
【緊急災害対策本部会議】
東北地方整備局と
国土交通大臣のテレビ会議

- 整備局長からの意見具申
- 阪神大震災とは違う津波型の大震災を想定しなければならない
 - 翌朝から人命救助で自衛隊や救援チームが入るルートを最優先に啓開する
 - 壊滅的な被害を受けた自治体の支援が必要



23:33
整備局長からの
3月12日対応指示



「内陸からの道路ルート啓開」のため、「業者・機械確保」をどれだけやれるかが死命を制すると指示

作戦の手書き地図



東北の横軸55本の中から16本のルートを選定

国土交通省 東北地方整備局資料

啓開された「道」 救援部隊が続々と

一刻も早く。
一人でも多くの命を助けたい。

啓かれた道を通して、震災翌日から陸・海・空各自衛隊、各県の緊急消防隊、広域緊急救助隊、海上保安庁、DMAT(災害派遣医療チーム)などが被災地へ急行し、総力をあげて人命救助や行方不明者の捜索を開始しました。各国からも救助隊員や救助犬、医療チーム、物流支援要員など29の国と地域、国際機関から緊急支援の手が差し伸べられました。宮城県石巻市では道路兼用の河川堤防が1,100mにわたって流出しました。まずは車1台が通れる幅の確保を最優先に復旧を実施し、3月14日には緊急車両の通行や緊急物資輸送が実現し、被災者支援に結びつきました。

国土交通省 東北地方整備局資料



復興のリーディングプロジェクト 復興道路、始動

未曾有の大災害からの復興を目指し、異例のスピードで事業が進められました。
これまでの三陸沿岸道路の事業化から開通までの平均年数は約**18年**。
震災時点で開通している復興道路・復興支援道路の延長は約**160km**で総延長約**570km**の
わずか**30%**でしたが、震災後**10年**で全線開通させることを目標に始動しました。



異例のスピードで キックオフ

- 2011.6**
太平洋沿岸軸の緊急整備(復興道路)と横断軸の強化(復興支援道路)の提言
- 2011.7~8**
復興道路・復興支援道路の具体的なルートが決定
- 2011.9**
道路整備のための事業評価手続き(事業内容が適正か審査)
- 2011.11**
事業化(道路整備に向けた用地買収・調査・測量・設計がスタート)

スタートダッシュの ための工夫

復興道路会議
事業の加速化を図るため関係者を一同に会し事業進捗への合意形成を図る会議を開催。
【復興道路会議構成員】
県知事、東日本大震災復興対策本部現地対策本部長(現 復興大臣政務官)、関係市町村長、地元経済界代表、報道関係代表、東日本高速道路(株)東北支社長、国土交通省東北地方整備局長



国土交通省 東北地方整備局資料

三陸地域の暮らしを支え、命を守る 6つの設計コンセプト

平時には三陸地域の暮らしを支え、災害時には命を守る機能を持った復興道路を実現するため、**6つの**設計コンセプトを設定し、整備を進めてきました。

- ### 1 強靱性の確保

復興道路が通過するルートは津波で浸水した区域を回避するよう設定しました。
- ### 2 低コストの実現

必要最小限の車線数の確保とコンパクトな形状のインターチェンジ整備で、費用を縮減しました。
- ### 3 復興まちづくりの支援

新たなまちづくりと連動させ、市街地からのアクセスの良さや利便性を考慮したインターチェンジを整備しました。
- ### 4 IC等の弾力的配置

水産業・商工業施設、防災拠点施設や病院へアクセスしやすい位置にインターチェンジを整備しました。
- ### 5 避難機能の強化

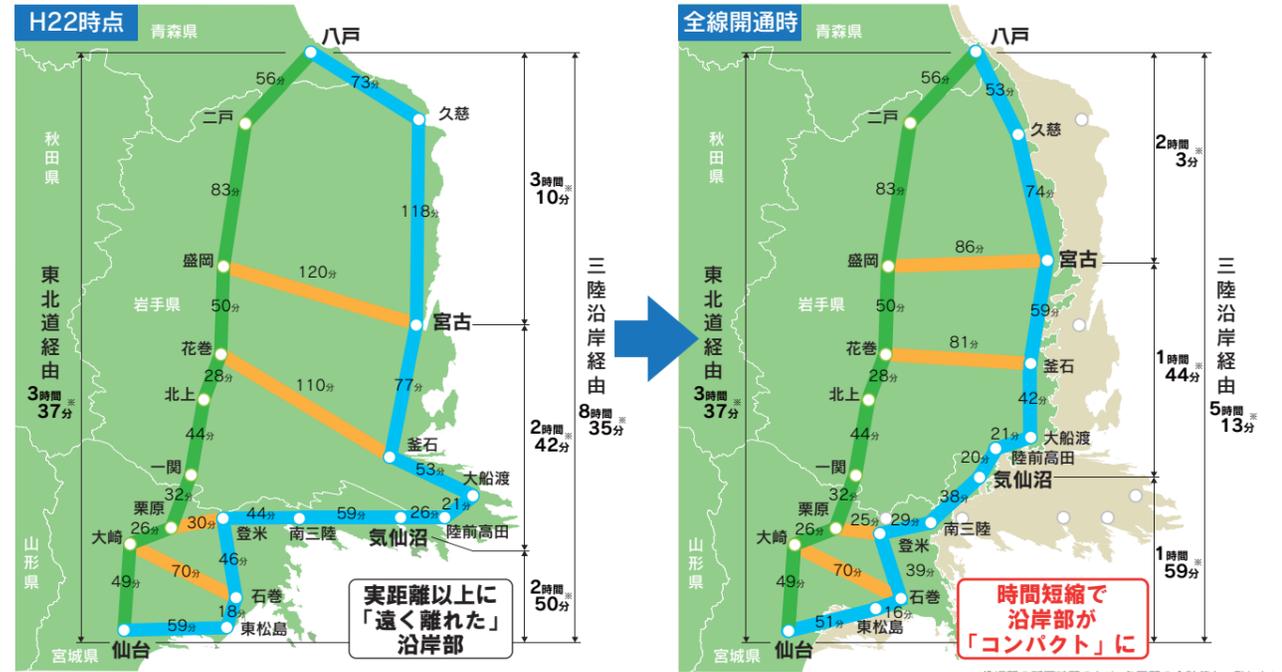
災害時に復興道路が避難場所となるよう、避難階段を設置しました。
- ### 6 ICTによる通行可能性把握

ICT(情報通信技術)によって災害時に通行可能なルート情報を把握しています。

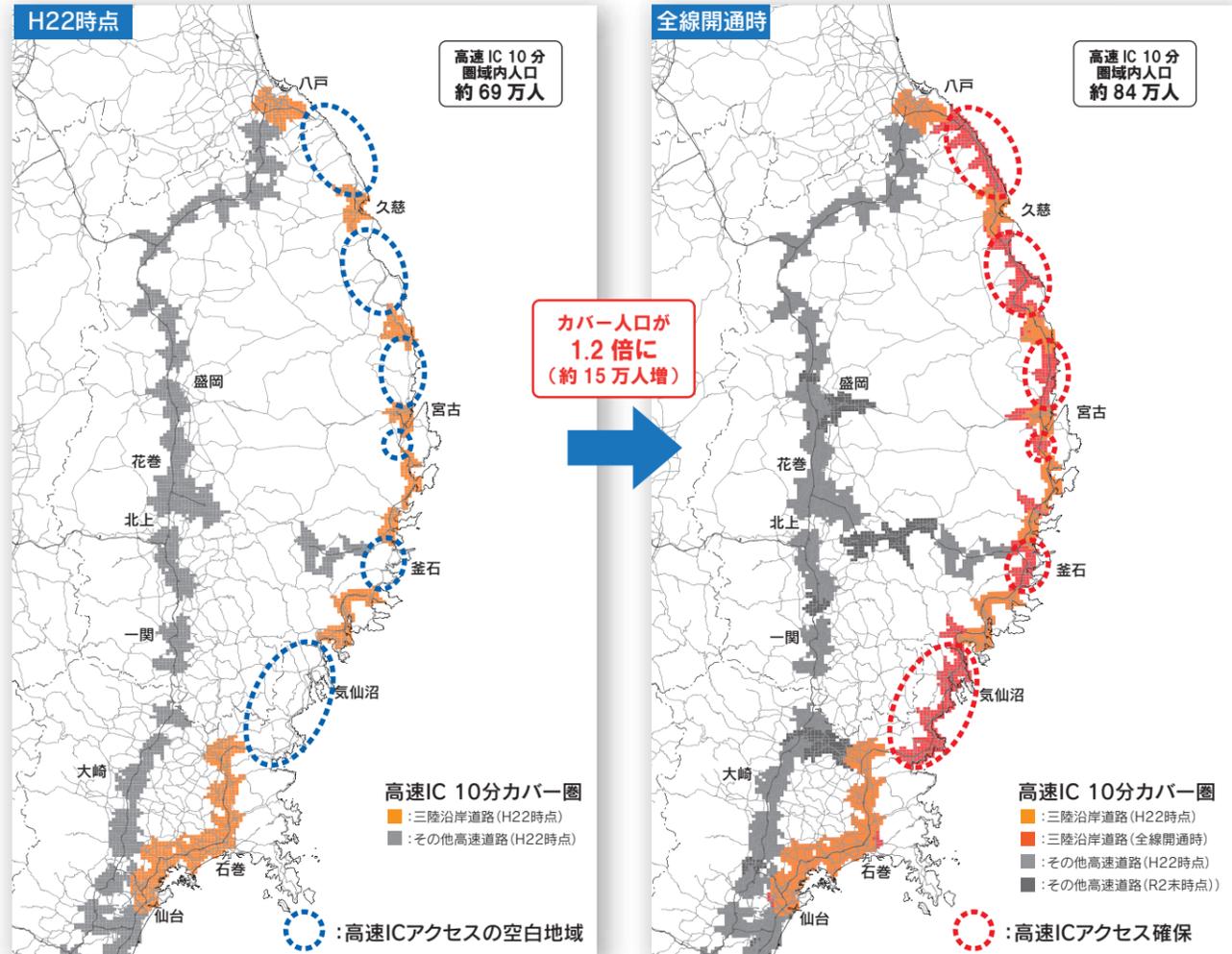
三陸沿岸エリアの移動時間が短縮

三陸沿岸を「時間地図※」で描く

※「距離」の代わりに、「所要時間」で位置関係を表現した地図

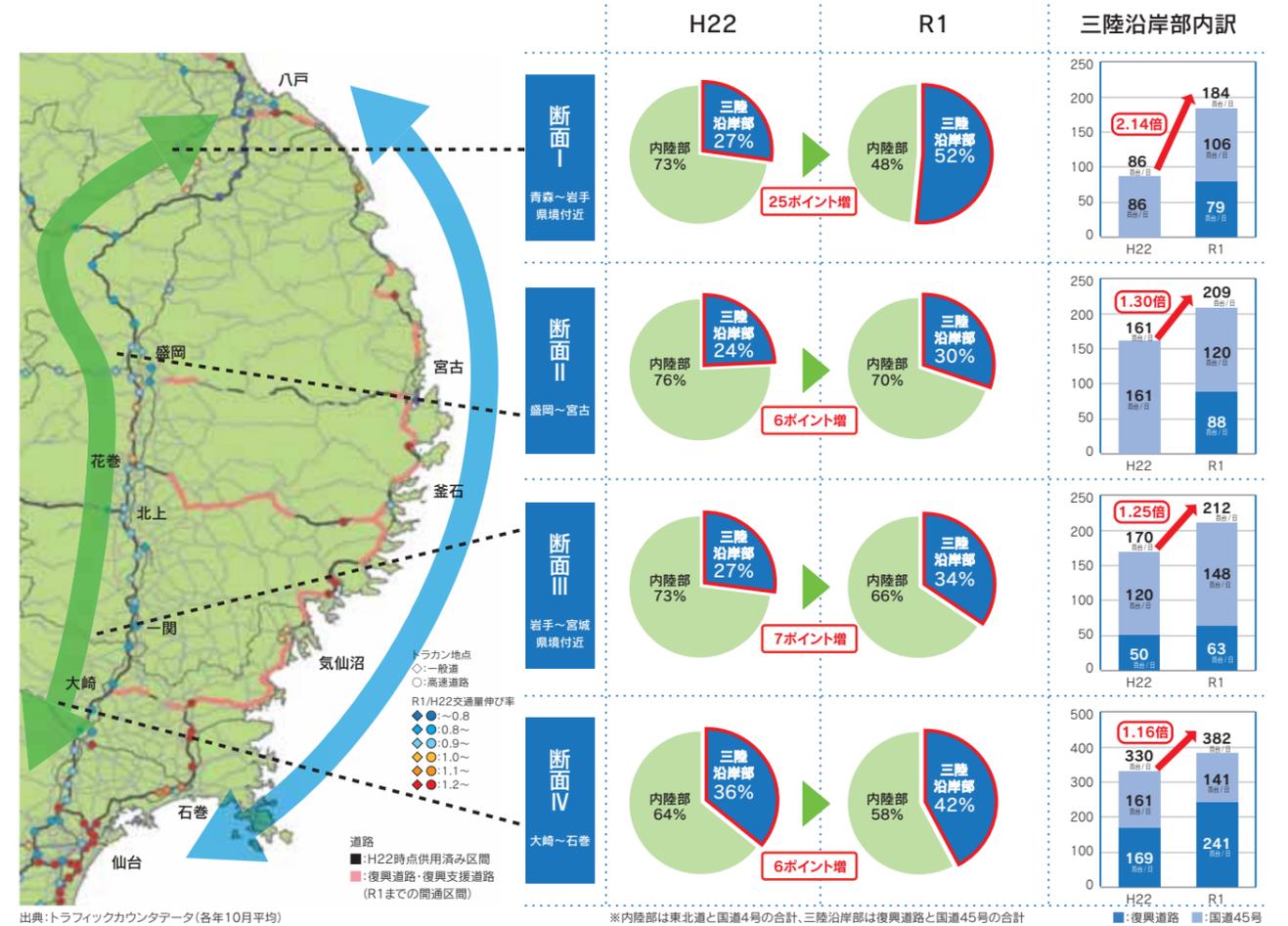


高速ICからのカバー圏が拡大

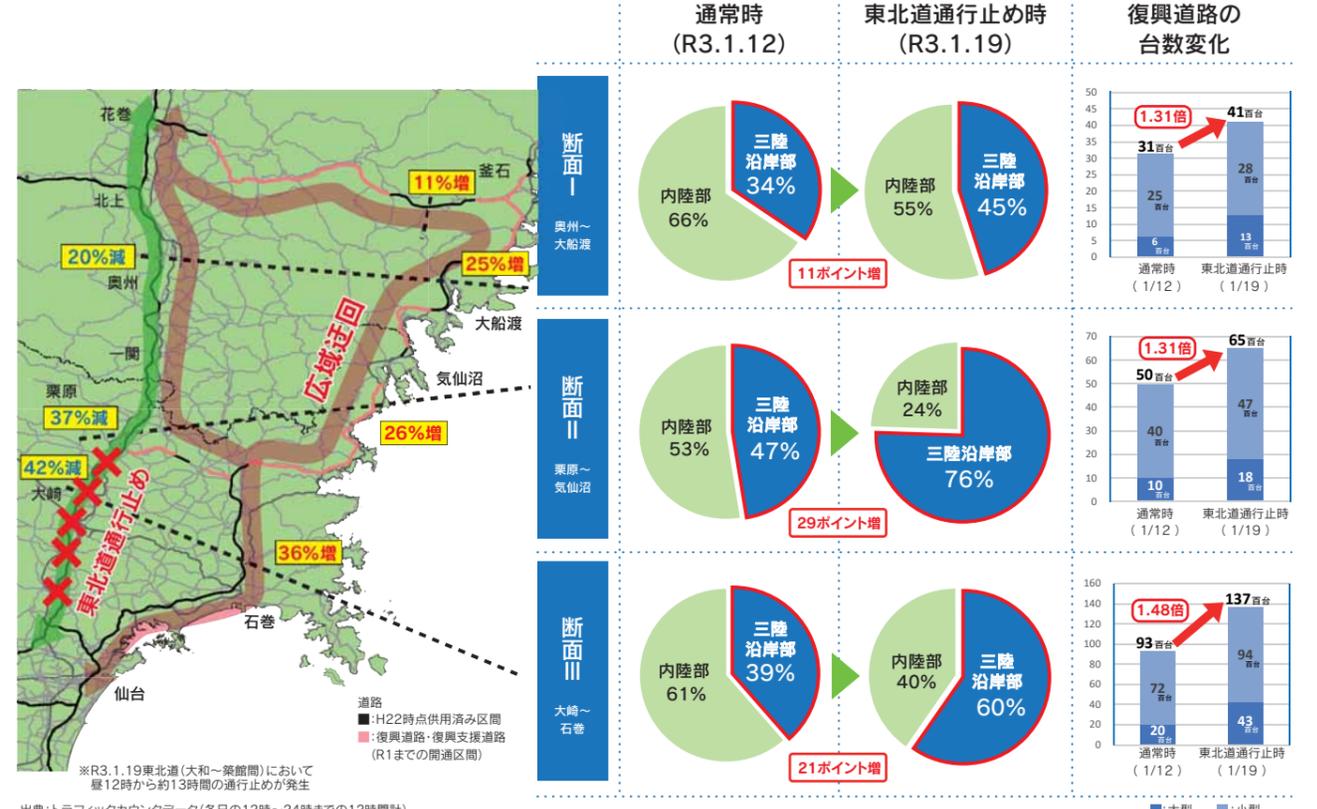


※道路網は平成31年時点のDRMデータを使用
 ※旅行速度は平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度を使用(調査時未供用区間は規制速度を使用)
 ※人口は平成27年 国勢調査の3次メッシュ(1kmメッシュ)人口を使用

三陸沿岸部へ交通流動の変化が始まる



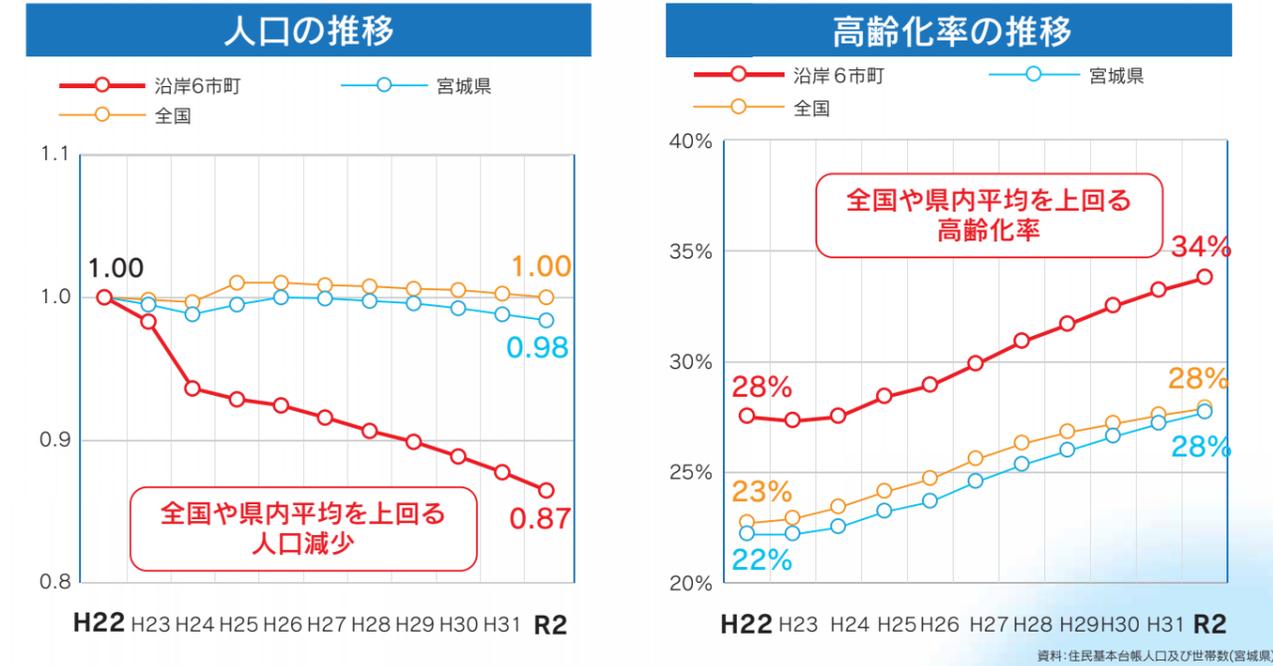
東北道通行止め時に代替ルートとして機能



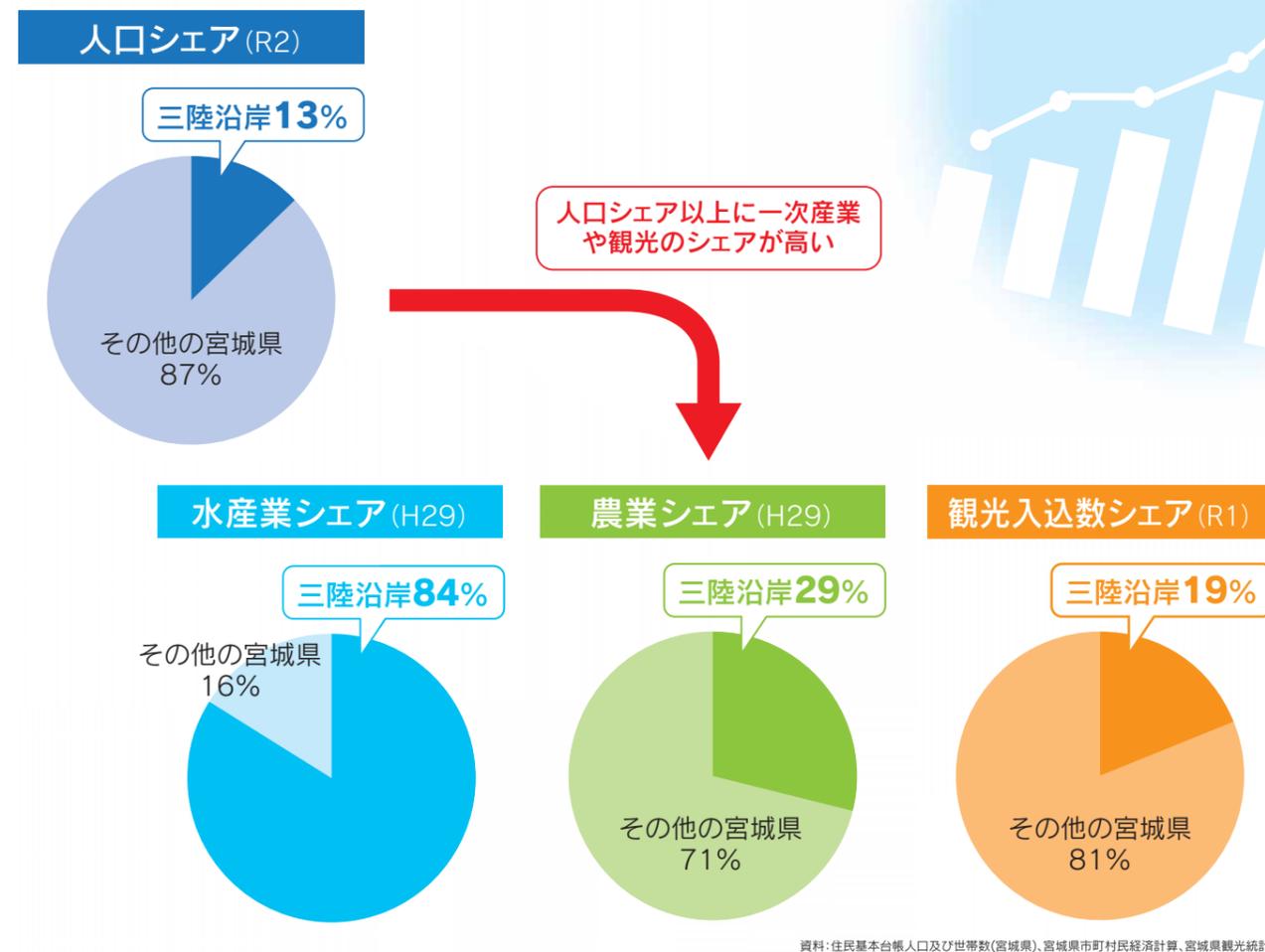
データで見る三陸沿岸エリア (宮城県)

※三陸沿岸エリアとして、気仙沼・本吉圏、登米圏、石巻圏の6市町を抽出

人口減少や高齢化が厳しい課題先進地



同時に、1次産業や観光など魅力溢れる地域



開通区間の変遷



水産業を応援する復興道路



【気仙沼漁港の生鮮カツオ】
気仙沼市は24年連続日本一の生鮮カツオの水揚げを誇る

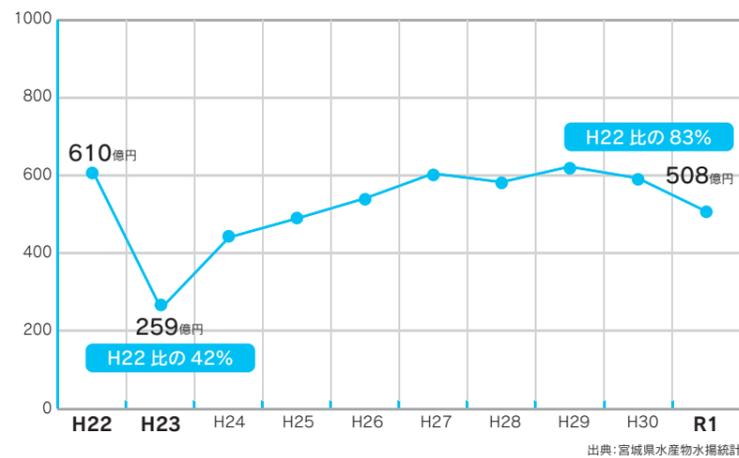
写真提供：宮城県

- 三陸沿岸エリアでは、震災直後、水揚げ金額がH22の約4割まで落ち込んだが、現在は約8割の水準まで回復
- 復興道路は、所要時間短縮により、水産品のより鮮度の高い輸送や生産活動の強化など、三陸沿岸エリアの水産業を応援します

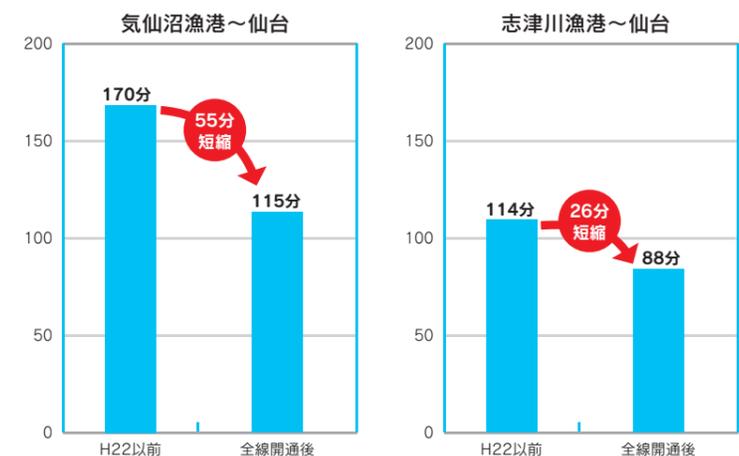
三陸沿岸エリアの水揚げ金額 (R1年度)



水揚げ金額の推移 (三陸沿岸エリア)



復興道路による所要時間短縮



復興道路経由で東京市場まで約50分短縮 より新鮮な水産品を全国へ届ける



東京中央卸売市場における宮城県シェア

品目	全国シェア (%)
カツオ	1位 2,235t (35%)
メカジキ	1位 79.7t (65%)
サメ	1位 30.7t (86%)
わかめ	1位 38.0t (47%)

輸送時間の短縮により、朝採れ品の販売エリアが拡大することが期待されます。



資料：東京中央卸売市場 (H30)

気仙沼市の水産関連企業 (H30.10ヒアリング)

- 全国シェア1位 (42%) 生鮮カツオ
- 全国シェア1位 (74%) 生鮮メカジキ
- 全国シェア1位 (50%) サメ
- 全国シェア1位 (89%) 銀ザケ(養殖)
- 全国シェア1位 (41%) わかめ類(養殖)
- 全国シェア1位 (36%) 生鮮マグロ
- 全国シェア2位 (41%) ほや(養殖)
- 全国シェア2位 (13%) カキ類(養殖)
- 全国シェア2位 (13%) ひらめ
- 全国シェア3位 (13%) さんま

写真提供：宮城県、気仙沼市、みやぎ銀ざけ振興協議会、みやぎわかめ振興協議会、みやぎほや振興協議会、みやぎカキ振興協議会、みやぎひらめ振興協議会、みやぎさんま振興協議会

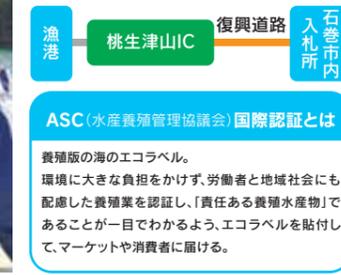
水産業のさらなる復興へ 新たな商品開発・ブランド化の取組みが進む

南三陸のブランド牡蠣



写真提供：宮城県漁業協同組合 戸倉出張所

過密だった養殖棚を震災後に3分の1に間引いたことで、栄養が行きわたり、以前は出荷まで2～3年かかっていたものが1年で良質な牡蠣に成長。2016年に国内初となるASC国際認証を取得。



ASC(水産養殖管理協議会)国際認証とは
養殖版の海のエコラベル。環境に大きな負担をかけず、労働者と地域社会にも配慮した養殖業を認証し、「責任ある養殖水産物」であることが一目でわかるよう、エコラベルを貼付して、マーケットや消費者に届ける。

メカジキの角を使ったジーンズ(気仙沼市)



写真提供：OIKAWA DENIM

これまで捨てられていたメカジキの角(吻)を繊維に織り込んだジーンズを製品化。綿を4割削減することに成功し、地元漁師から年間1トンの角を受け入れる。

ブランドサーモン(南三陸町、女川町、石巻市)



写真提供：みやぎ銀ざけ振興協議会

ギンザケの最高級ブランド「みやぎサーモン」は、鮮度保持処理(活け締め、神経締め)を施すことで、生鮮のまま刺身で食べられる。2017年、宮城県産農林水産物等では初めて国の「地理的表示(GI)」として登録。

気仙沼メカジキブランド化推進委員会



写真提供：気仙沼メカジキブランド化推進委員会

地元では身近なメカジキを使った新たな商品開発やレシピ紹介など販路拡大に向けて、2015年にブランド化推進委員会を立ち上げ。



石巻鮎川港の捕鯨



写真提供：(株)鮎川捕鯨

石巻鮎川港は、江戸末期の「鯨組」に始まり、明治以降はわが国近代捕鯨の中心的基地として発展。2020年には32年ぶりに商業捕鯨が再開。



気仙沼の生産体制が強化 IC近隣に水産加工施設や荷捌きターミナルが集積



出典:気仙沼市提供資料(R3.2時点立地企業数)



出典:気仙沼市産業部水産課「気仙沼の水産」



全線開通に合わせ、ヨコレイでは魚を選別・凍結・保管する施設を新設。同社最大の急速凍結設備や、魚の選別や箱詰めなどの作業の自動化システムを導入。

全線開通を控え、マルハニチログループが新工場を建設。従業員約160名は市内最大級で、震災後、福岡や静岡の工場に移っていた従業員約30名も戻る。

震災からの早期再建を目指して、気仙沼の水産加工会社19社が共同で南気仙沼水産加工事業協同組合を設立し超低温冷蔵庫を整備。

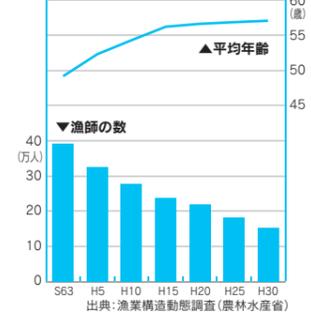
効率的な流通体制の構築を目指して、気仙沼市にて、共同トラックターミナルを整備。運送事業者6社で(約3,600台/月)が利用。将来的には、三陸沿岸エリアでの共同配送も視野に入れる。

新たな漁業の形 若手”フィッシャーマン”を応援

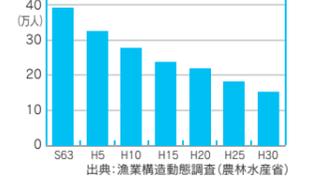


写真提供:フィッシャーマン・ジャパン

漁師は減少と高齢化が同時進行

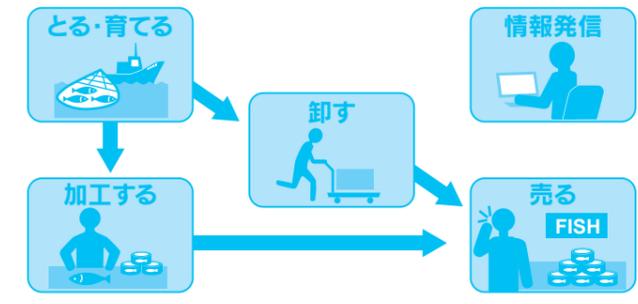


漁師の高齢化や後継者不足が進む中、漁業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく若手漁師集団(2014年石巻市にて設立)。



出典:漁業構造動態調査(農林水産省)

フィッシャーマンとは水産業に関わる全ての人



フィッシャーマン・ジャパン	フィッシャーマン・ジャパンマーケティング
担い手育成事業	水産物販売事業
<ul style="list-style-type: none"> 求人情報発信、受入体制整備 大学生・子どもの漁業体験 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店、通販 輸出 加工品など商品開発

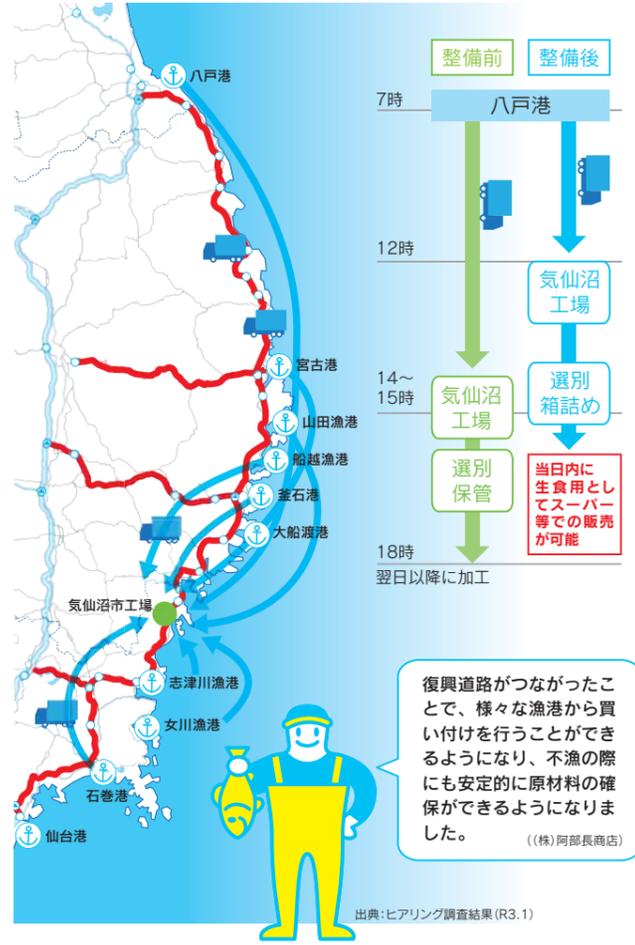


・担い手育成事業では、勉強会や親方漁師とのマッチング、シェアハウスの設置など、これまで関わったフィッシャーマンは千人を超えます。
・復興道路により移動時間が短縮でき、商品の配送や仙台市内のお客様への訪問など様々な面で便利さを感じています。

(一社)フィッシャーマン・ジャパン

石巻港～八戸港まで約300kmが射程 原料調達の広域化により生産安定化

気仙沼の工場への仕入れ状況



復興道路がつながったことで、様々な漁港から買い付けを行うことができるようになり、不漁の際にも安定的に原材料の確保ができるようになりました。

(株)阿部長商店

出典:ヒアリング調査結果(R3.1)

県を越えた三陸沿岸エリアの連携 タッグを組んで水産物を海外輸出

三陸コーポレーション共同出資会社



7社共同出資
地域会社「(株)三陸コーポレーション」を設立(2016年)

個社では不足する海外輸出の経験・ノウハウ・ブランド力を強化



出典:株式会社三陸コーポレーション資料



コロナ下の取り組み ネット販売で水産品需要を掘り起こし、ご自宅まで復興道路がお届け



フィッシャーマン・ジャパンでは、コロナ禍で消費が低迷する中、ネット販売で、鮮魚の宅配詰め合わせを開始。オンラインで初心者向けに「お魚さばき教室」も配信。

発売1か月で1,500箱を超えました。首都圏などへ復興道路を利用して発送しています。

(一社)フィッシャーマン・ジャパン



南三陸のお歳暮カタログ



南三陸町では、お歳暮商戦に向け、南三陸町の特産品を紹介するカタログ「南三陸冬だより」を発行。

コロナの影響により、あらゆる業種で商品の流通が滞っている中、復興道路を活用して、南三陸の食の魅力をお届けします。

(南三陸町 商工観光課)



石巻から仙台市内までは、復興道路を活用し、「朝採れ」の新鮮さを売り上げ、殻付きカキやホヤの配送を行っています。

写真提供:(株)海遊

(株)海遊



石巻市にて、コロナ下の水産事業者支援として、地場の海産物や水産加工品を最大3割引で販売する特設サイトを開設。

写真提供:石巻市

復興道路を通じて、石巻の海の幸を全国へお届けします。コロナ禍で売り上げが落ち込む水産事業者をご支援ください。

(石巻市 産業部 水産課)



農畜産業を応援する復興道路



【仙台牛と稲作風景】
仙台藩以来の米どころ。ブランド米やその稲わらで育てたブランド牛など品種改良の努力が続く

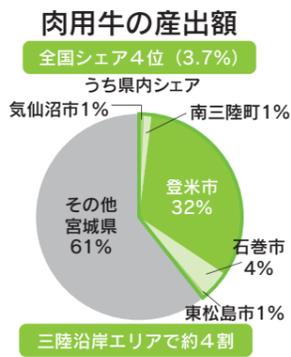


- 復興道路沿線には、登米市や石巻市など、県内有数の米や肉用牛の生産地帯が広がる
- 復興道路は、所要時間短縮や走行安定性の向上により、農畜製品の輸送や新たな農業経営など、三陸沿岸エリアの農畜産業を応援します

ブランド牛を揺れの少ない復興道路が輸送



写真提供：(株)日高見牧場



肉用牛の産出額の推移(三陸沿岸エリア)



出典：市町村別農業産出額(農林水産省)



ブランド牛にもなる生体牛の輸送には、時間短縮だけではなく、急ブレーキや揺れが少ないことが重要であり、復興道路には大変助けられています。

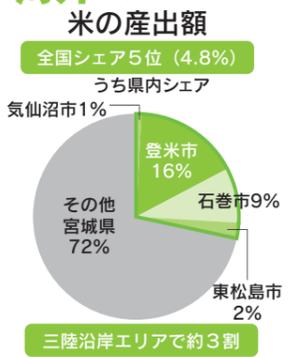
(株)日高見牧場



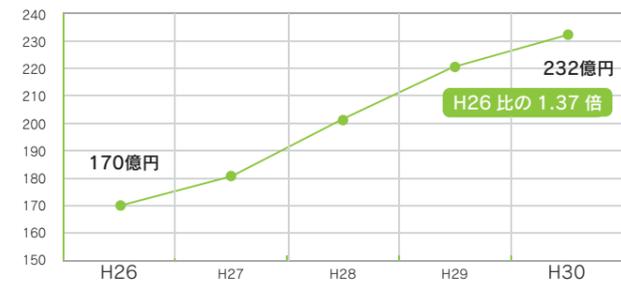
米どころ宮城の美味しいお米が全国・海外へ



写真提供：JAみやぎ登米



米の産出額の推移(三陸沿岸エリア)



出典：市町村別農業産出額(農林水産省)



JAいしのまきでは、2017年から「ひとめぼれ」をシンガポール、台湾、米国などに輸出しており、輸出量は開始当初の約3倍にまで伸びています。

(いしのまき農業協同組合)



新たな農業の形 農業生産法人のスマート農業を応援



写真提供：河北新報社 2020年(令和2年)11月29日朝刊 石ノ森農場

ハウス内部の温度や湿度、CO2濃度、日射などをセンサーで検知し、天窓開閉や水やりをコンピュータ制御で自動管理するスマート農業により、登米市の名産であるキュウリを栽培。



復興道路により所要時間が大幅に短縮したおかげで、契約エリアの拡大や収穫したばかりのキュウリを届けられるようになり、売上げ向上につながっています。

(株)石ノ森農場



写真提供：河北新報社 2020年(令和2年)11月1日朝刊

気温や雨量、日照時間といった計測装置の活用などICT化を進めながら、ベテラン農家の知見も加えた「デジタルとアナログを融合させた農業」の実現により、若者の就農へのハードルを下げることを目指す。



高台移転で管理が難しくなった農地を借り受け、農業の担い手育成に取り組んでいます。復興道路からのアクセスの良さは、新たに就農者に移住してもらう際も強みになっています。

体験型農業プログラムも行っており、復興道路による交通アクセスの良さがリピート増加につながっていると感じています。

(一社)イシノマキ・ファーム

南三陸町の新たな魅力 移住者が生み出すワイナリーを応援



写真提供：南三陸ワイナリー(株)

2016年、「南三陸ワインプロジェクト」として始動し、2020年には「南三陸ワイナリー」がオープン。ワイン生産に加え、ワインツーリズムなど多角的な産業振興に取り組む。



復興を支援するために南三陸町へ移住し、地域おこし協力隊に着任しました。2020年の売上げは、前年の約3倍に伸びています。

自社から仙台市内の取扱店舗等への配送だけではなく、ブドウ収穫体験などでワイナリーを訪れてもらう観光客の方にも復興道路が利用されています。

(南三陸ワイナリー(株))

東松島のいちご×陸前高田のゆず 復興道路沿線でコラボ商品誕生



写真提供：(株)ルーチェ

JAL(日本航空(株))による地域活性化プロジェクトとして、東松島のいちごと陸前高田の北限の柚子を使用したフルーツカクテルが商品化。



今回の新商品や復興道路の開通をきっかけに、東松島まで多くの方々が訪れてくれることを期待しています。

(株)イグナルファーム(いちご生産者)

観光を応援する復興道路



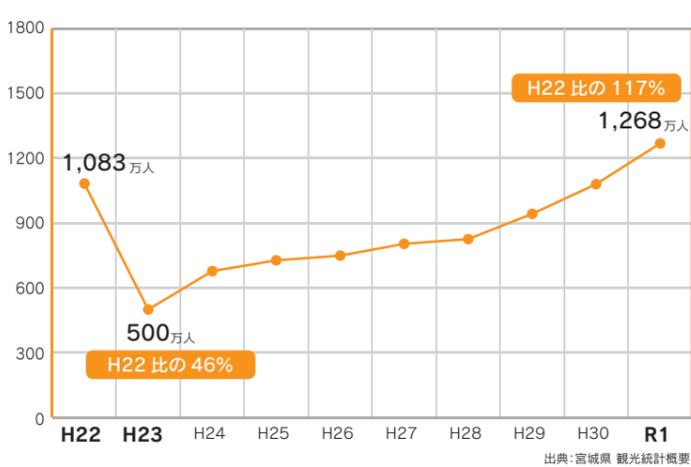
【南三陸さんさん商店街と南三陸町震災復興祈念公園】
かさ上げされた新たな商店街と伝承の場がつながる

- 三陸沿岸エリアでは、震災直後、観光入込客数がH22の約半分まで落ち込んだが、現在は約1.2倍の水準まで回復
- 復興道路は、所要時間短縮により、周遊観光エリアの拡大や震災伝承ツアーの充実など、三陸沿岸エリアの観光を応援します

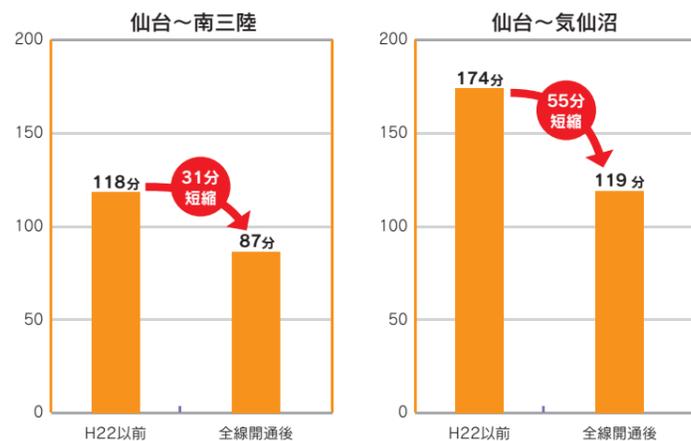
復興道路沿線の観光入込客数



観光入込客数の推移(三陸沿岸エリア)



復興道路による所要時間短縮



復興道路沿線に 新たな観光施設が続々とオープン

①ないわん(気仙沼市)

写真提供:気仙沼観光推進機構

気仙沼市内湾地区に整備された4つの施設「迎(ムカエル)」、「創(ウマレル)」、「結(ユワエル)」、「拓(ヒラケル)」からなる観光商業エリア。2020年7月グランドオープン。

②気仙沼湾横断橋(気仙沼市)

写真提供:気仙沼観光推進機構

全長1,344mの東北最長の斜張橋。愛称の「かなえおほし」には、気仙沼湾の別名である「鼎(かなえ)が浦」と、夢や希望、願いを「かなえる」という2つの意味が込められている。2021年3月供用。

③南三陸さんさん商店街(南三陸町)

写真提供:南三陸町

「サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたい」というコンセプトのもと、2012年2月に仮設商店街としてオープンし、2017年3月3日に本設オープン。飲食店をはじめ、鮮魚や土産物などがそろう。

④南三陸ハマレ歌津(南三陸町)

写真提供:南三陸町観光協会

震災以降、「伊里前福幸商店街」として愛されてきた商店街から、名称を新たに観光や地域コミュニティ拠点として2017年4月オープン。ハマレは、「はまる(仲間になるの方言)」、「浜(三陸リアスの光景)」、「マーレ(イタリア語で海)」を掛け合わせた。

⑤みやぎ明治村(登米市)

写真提供:登米市

現存する旧登米高等尋常小学校や旧登米警察署庁舎など、ハイカラな洋風建築物が明治を偲ばせるレトロタウン。

⑥いしのまき元気いちば(石巻市)

写真提供:石巻市

石巻の地場産品を販売する観光交流施設として2017年6月にオープン。2階の食堂テラスは「かわまちづくり」の堤防広場へつながっており、旧北上川を眺めながら地元食材を使った料理が楽しめる。

⑦シーバルビア女川(女川町)

写真提供:女川町

女川駅から海へのびるレンガみち沿いにオープンした商店街(2015年12月)。スーパーや飲食店など町民の憩いの場でありながら、来町者や観光客も歩きながら楽しむことができる。

⑧航空自衛隊松島基地(東松島市)

写真提供:東松島市観光物産協会

航空自衛隊のブルーインパルスが所属する松島基地は、津波により甚大な被害を受けたが、2013年にはブルーインパルスが帰還。毎年8月には航空祭を開催。

気仙沼IC から約6分

気仙沼IC から約3分

志津川IC から約3分

歌津IC から約2分

登米IC から約5分

石巻河南IC から約11分

石巻女川IC から約26分

矢本IC から約4分

仙台～気仙沼が2時間圏に 日帰り観光ツアーの周遊エリア拡大



コロナ下の取り組み 近くから何度も来てもらう 「マイクロツーリズム戦略」を後押し

マイクロツーリズムの概念

移動距離: 近隣への外出, 外出, 自粛

時間軸: 自宅から1～2時間で行ける範囲をターゲット

気仙沼クルーカード

クルーシップ会員は市内の加盟店での買い物でポイントが貯まったり、限定サービスを受けられる。

気仙沼DMOの取り組み

リピーターにポイント付与

気仙沼DMO 加盟店料

購買データを用いて地域の観光戦略立案

ウィズコロナの観光戦略としてマイクロツーリズムに注目しています。

復興道路の開通で、仙台が2時間圏に入ってくることもあり、会員へのポイント還元やヘビーリピーターへのプレミアムサービスなど、さらに気仙沼に寄りたいて言ってもらえるような施策に取り組んでいきたいと思っています。

(一社)気仙沼地域戦略

震災の記憶を巡る 復興道路沿線の震災伝承施設



①東日本大震災遺構・伝承館(気仙沼市)



震災当日まで宮城県気仙沼向洋高校の校舎として利用されていた。12mの津波により破壊された校舎や流されてきた車両が当時のままの姿を残す。現役高校生による語り部クラブとも連携。

大谷海岸IC から約8分

②高野会館(南三陸町)



S61年に南三陸町の数少ない総合結婚式場として整備。震災当日も老人クラブの芸能発表会が行われていたが、利用客ら327名が屋上へ避難し、命が助かった。南三陸ホテル観光にて、語り部バスを毎日運行。

志津川IC から約6分

③南三陸町震災復興記念公園(南三陸町)



津波に飲み込まれた志津川地区の市街地跡に、犠牲となられた方々の追悼・鎮魂、被害の記憶や教訓の継承、震災からの復興を祈念する場として整備された公園。2020年10月、旧防災対策庁舎を含むエリアを加えて全体開園し、「中橋」によりかさ上げされた志津川市街地とつながる。

志津川IC から約3分

④南浜復興記念公園(石巻市)



約500名が犠牲となった南浜地区の跡地に、追悼や震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信を目的として整備された公園。園内は、震災前の街路網を残すとともに、市街化される前の風景である湿地や樹林地を復元。中心部には国営追悼・祈念施設を整備。

石巻河南IC から約14分

⑤東日本大震災復興祈念公園(東松島市)

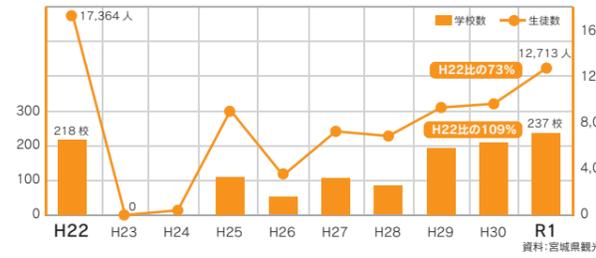


かつて海水浴客などで賑わった野蒜地域の玄関口である野蒜駅は、津波によりホームの柱が大きく傾き、レールも大きく湾曲するほど甚大な被害を受けた。新野蒜駅は高台に移ったが、旧野蒜駅プラットホームを「震災遺構」として被災当時の姿で公開。

鳴瀬奥松島IC から約6分

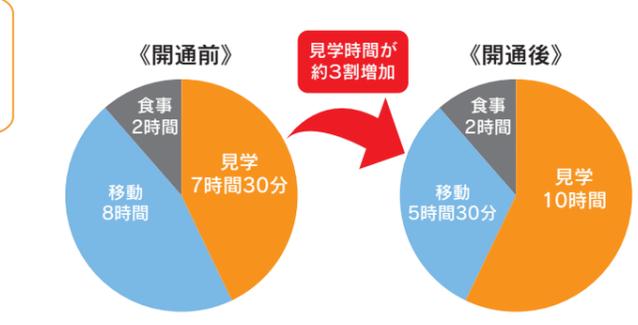
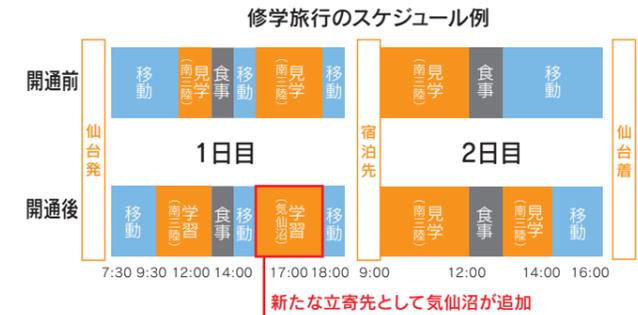
震災の教訓を学ぶ 教育旅行が増加、見学エリアも拡大

気仙沼圏域(気仙沼市・南三陸町)を訪れる教育旅行の学校数と生徒数



・2020年度は修学旅行客として、例年の約1.5倍の150校、1.5万人以上を受け入れました。
・全線開通により、更なる集客期待が膨らみます。(南三陸ホテル観光)

復興道路の開通も追い風として、首都圏のみならず、東北の学校も含めて修学旅行の受け入れに力を入れていきたいと思えます。(気仙沼観光コンベンション協会)

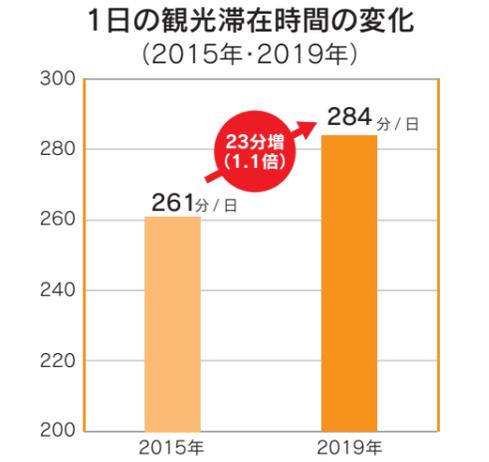


ビッグデータで見る 三陸沿岸エリアの滞在時間が増加

ETC2.0データとは

ETC2.0データとは

車載器のGPSなどから、経路情報や速度情報等を把握できるビッグデータです。今回は、2015年からの蓄積データを用いて、観光地における滞在時間の変化を分析します。
※全国約490万台(2020年3月末時点)



※対象エリア
復興道路沿線の観光地に発着があるデータ(気仙沼市、南三陸町、登米市、石巻市、東松島市)

※滞在判定
1kmメッシュに30分以上滞在したデータ

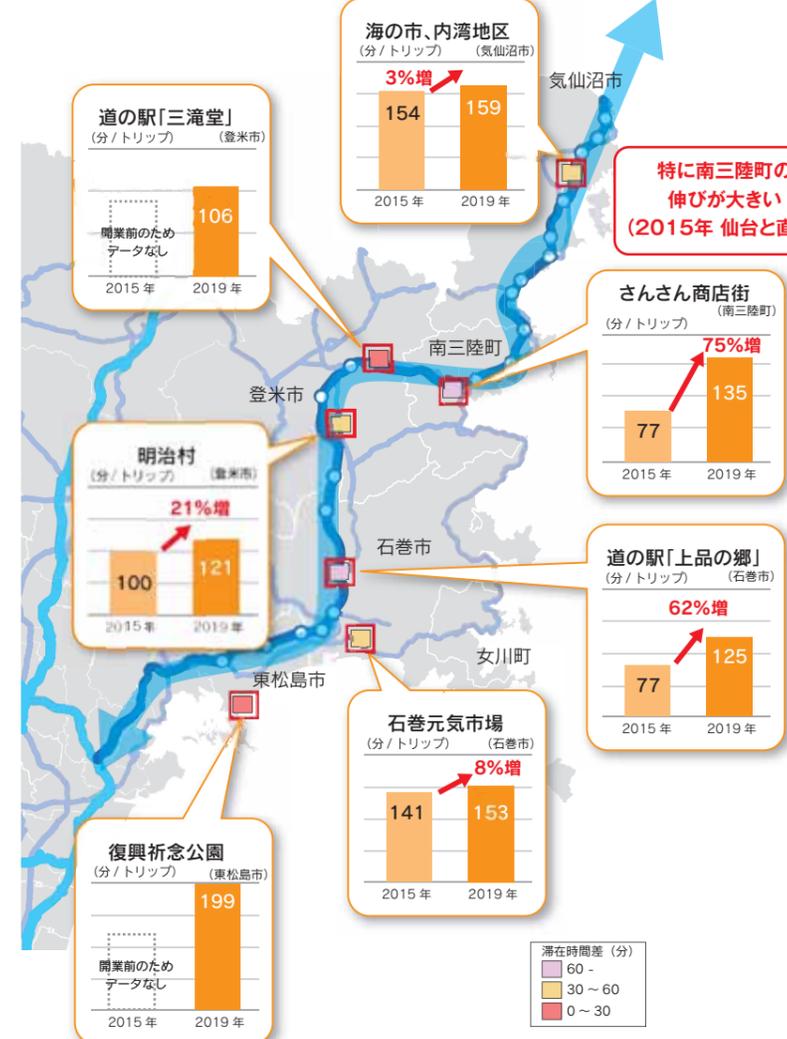
※対象車両
貨物用途を除く車両(乗用及び乗合)

※対象期間
2015年:4~12月(計316台)
2019年:4~12月(計10,339台)

※分析ツールには、プローブ交通情報管理解析システム「PROTANAS」を使用。

※メッシュ分析には、データ数の信頼度の観点から、サンプル数が10台以下のメッシュは使用せず。

主な観光地における平均滞在時間の変化(2015年・2019年)



3.11伝承ロード

震災の実情や教訓を学ぶための「震災伝承施設」をマップや案内標識の整備などによりネットワーク化を図り、防災や減災、津波などに関する「学び」や「備え」について様々な取り組みを行う。

震災の教訓を学ぶために、震災伝承施設を効率よく巡る復興道路の利用は欠かせません。(一社)3.11伝承ロード推進機構

<震災伝承施設ピクトグラム>

走行車両等から認識しやすく、外国人にも理解されやすいよう、既存のJIS記号の「津波」と「博物館/美術館」を基にした図案を組み合わせたデザイン

移動時間短縮で 語り部の時間を十分に確保

道の駅「上品の郷」を発着として、石巻市街地方面や大川小学校などへの案内を行っています。
河北ICを利用することで、語り部の時間を減らすことなく、他のエリアも訪れることが可能となっています。

復興道路の開通により渋滞の懸念が解消されたため、仙台行きシャトルバスの出発時間を15分遅らせることができました。
お客様には帰りの朝に、当館から運行している1時間程度の語り部バスツアーに時間の余裕をもって参加いただくことができました。

時間に余裕ができたことで、震災の状況だけでなく、これまで以上に「命を守る行動」の大切さも話せるようになりました。

企業活動を応援する復興道路

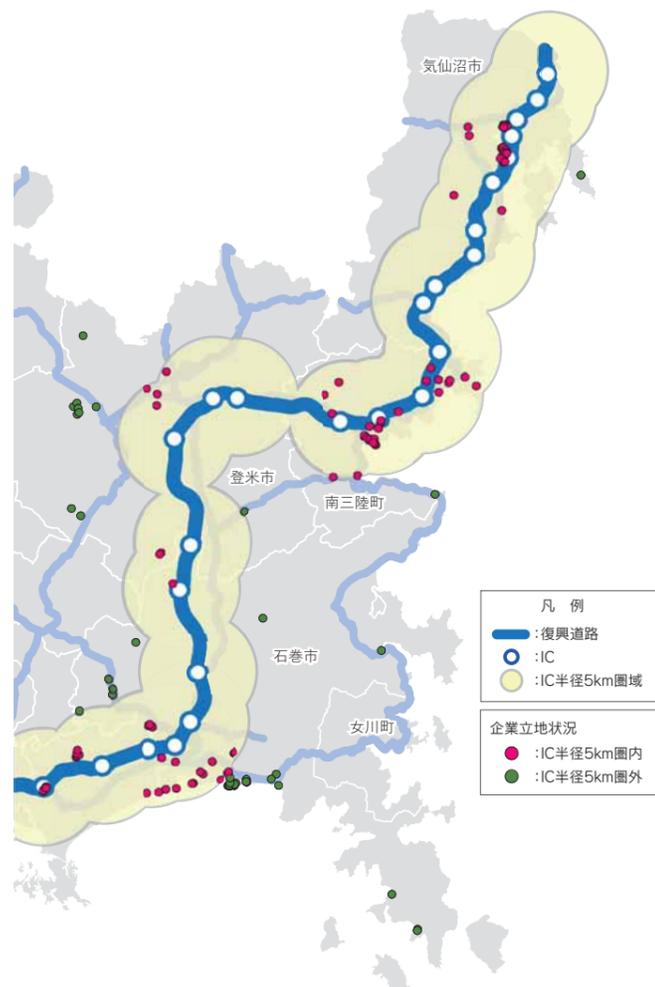


【紙のまち石巻、「復興のろし」】
日本製紙石巻工場は壊滅状態から半年で復旧し、煙突から蒸気が上がる。

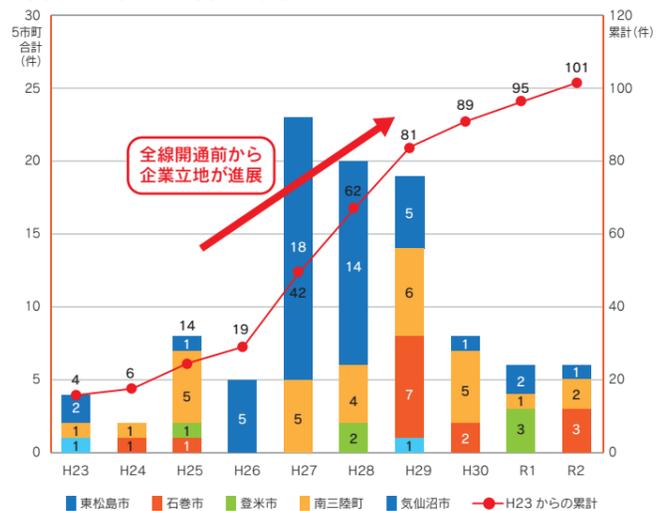
写真提供：日本製紙(株)石巻工場

- 復興道路沿線では、食品製造業などの企業立地が進み、震災後の新規立地の約8割がICの5km圏内に存在
- 復興道路は、所要時間短縮や定時性、走行安定性の向上により、企業間取引の活発化や輸送効率の向上など、三陸沿岸エリアの企業活動を応援します

復興道路沿線の企業立地



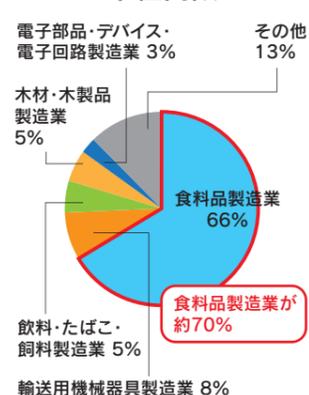
新規企業立地件数推移(IC5km圏内)



ICからの距離内訳



業種内訳

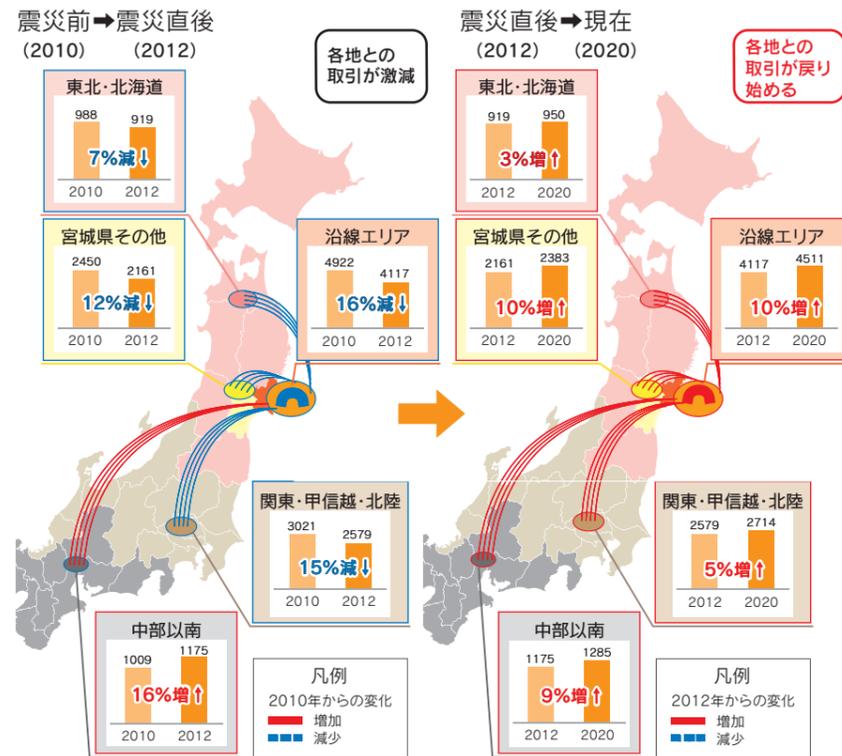


出典：沿線5市町自治体調べ

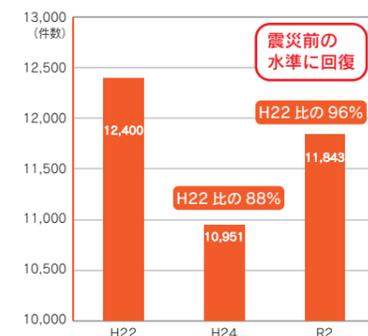
ビッグデータで見る 三陸沿岸エリアの企業間取引が回復

企業間取引ビッグデータとは

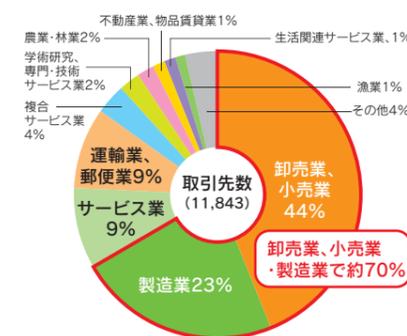
信用調査会社が収集した各企業の取引状況(仕入先・販売先)をつなぎ合わせることで、企業同士の取引ネットワークを把握することができるビッグデータです。今回は、「株式会社東京商工リサーチ」が所有するデータを用いて、三陸沿岸エリアの取引活動の変化を分析します。



取引件数の推移



取引件数の業種内訳(2020)



1/1000ミリの研磨技術、揺れの少ない復興道路で航空機のタービンブレードを海外輸出



写真提供：(株) エヌエス機器



・研磨技術を生かして、2019年に航空機部品の専用工場を新設し、ボーイング社の航空部品の受注も内定しました。
 ・相馬工場からエンジン部品を仕入れ、当社で加工後、再び相馬工場へ納品しています。
 ・航空機の部品は1,000分の1ミリの形状を崩さずに磨く必要があり、揺れ対策において復興道路はとても重要です。

(株) エヌエス機器



1日に100台のトラックが輸送、定時性向上で製紙会社の輸送効率が2倍に

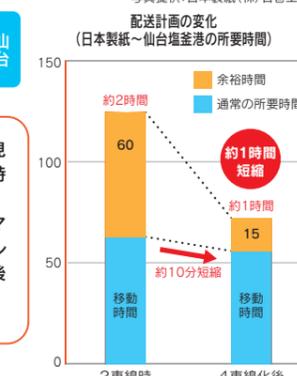


写真提供：日本製紙(株) 石巻工場



・4車線化により、これまで2時間見込んでいた輸送計画を、半分の1時間に見直すことができました。
 ・また、コロナ下の新商品として、マスクケースなどに使われる抗ウイルス製品の製造箇所を選定され、今後も生産量は拡大する見込みです。

(日本製紙(株) 石巻工場)



復興まちづくりを応援する復興道路

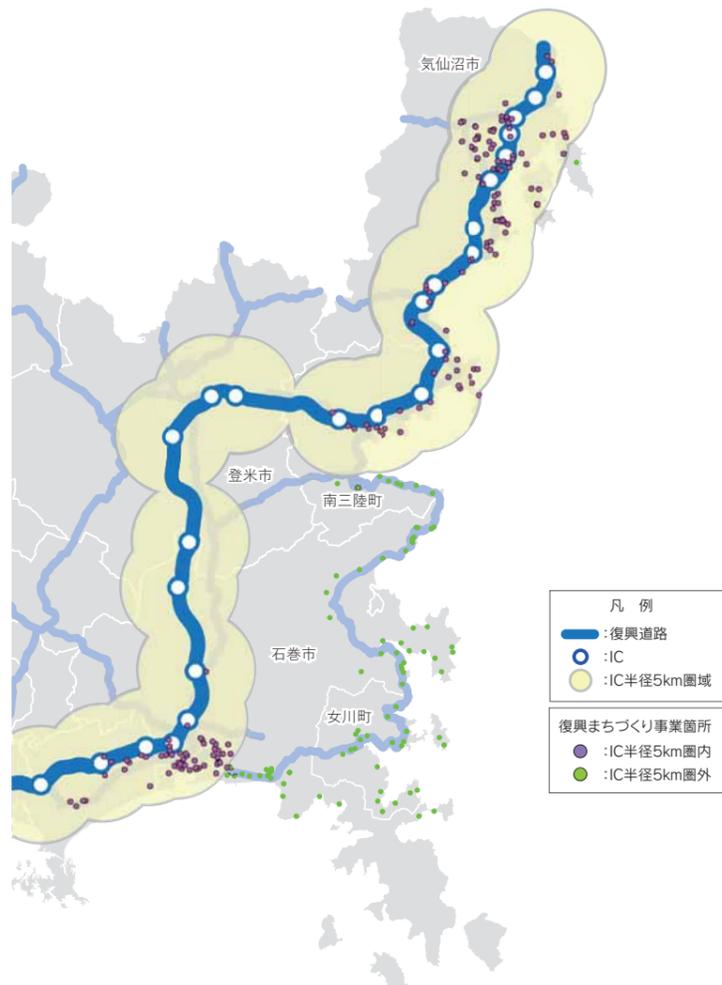


【南三陸町志津川東地区災害公営住宅】
「いつか再来する大津波から人命を守る」ことを最優先し、住宅の高台移転を敢行

写真提供：南三陸町

- 三陸沿岸エリアでは、防災集団移転事業や災害公営住宅などの復興まちづくり事業が進み、約6割が復興道路のICから10分圏内に存在
- 復興道路は、所要時間短縮やきめ細かいIC配置により、新たな市街地からの買い物や通勤、通学、通院の利便性確保など、三陸沿岸エリアの復興まちづくりを応援します

復興道路沿線の復興まちづくり



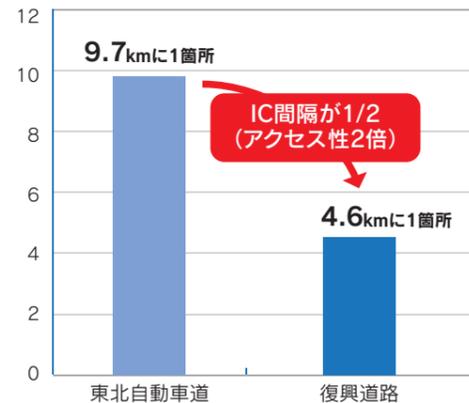
凡 例
 復興道路
 IC
 IC半径5km圏域
 復興まちづくり事業箇所
 IC半径5km圏内
 IC半径5km圏外

復興道路ICからの時間



※復興まちづくり事業
 (防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、復興公営住宅整備事業、土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業を対象)
 ※多賀城以北の沿岸市町を対象
 ※1地区1箇所計上

復興道路のIC設置間隔



空から見た復興道路と復興まちづくり

気仙沼市



○ 防災集団移転促進事業
 ● 被災市街地復興土地区画整理事業・津波復興拠点整備事業等

H29年度
 ・気仙沼中央ICまで開通

R1年度
 ・鹿折地区(市)被災市街地復興土地区画整理事業完成
 ・気仙沼港ICまで開通

R2年度
 ・魚町・南町地区(市)被災市街地復興土地区画整理事業完成予定
 ・南気仙沼地区(市)被災市街地復興土地区画整理事業完成
 ・三陸沿岸道路全線開通



・気仙沼市内には復興道路への出入口が10か所あり、通勤や通院時の利便性が高く移動時間も短くなりました。
 ・復興道路は「普段使いできる道路」でもあります。(気仙沼市)

撮影：R2.2月

南三陸町



撮影：H30.3月

H28年度
 ・防災集団移転促進事業(西地区・中央地区・東地区)完成
 ・志津川ICまで開通
 ・南三陸さんさん商店街本設移設

H29年度
 ・南三陸町役場完成
 ・歌津ICまで開通

R2年度
 ・南三陸町震災復興記念公園完成
 ・三陸沿岸道路全線開通
 ・志津川地区被災市街地復興土地区画整理事業(町)完成



・高台移転した新たな復興団地からも、すぐにアクセスできるICがあります。
 ・石巻・仙台方面、気仙沼方面への買い物や通勤、通院など、日常生活でも復興道路が果たす役割は大きいと感じています。(南三陸町)

石巻市



撮影：H29.9月

H27年度
 ・石巻女川IC開設
 ・石巻赤十字病院 救急救命病棟拡張
 ・新蛇田地区(市)復興公営住宅整備事業完成

H28年度
 ・4車線化完了(仙台北IC~桃生豊里IC)

H30年度
 ・新蛇田南地区(市)被災市街地復興土地区画整理事業完成



・被災後の移転先としてIC周辺に整備した新蛇田地区をはじめ、多くの市民が通勤や通学など、復興道路を日常的に利用されています。
 ・今後も、地方創生や持続可能な新たな支え合いのまちづくりを進めるため、復興道路の活用を図ってまいります。(石巻市)

災害時でも強靱な復興道路



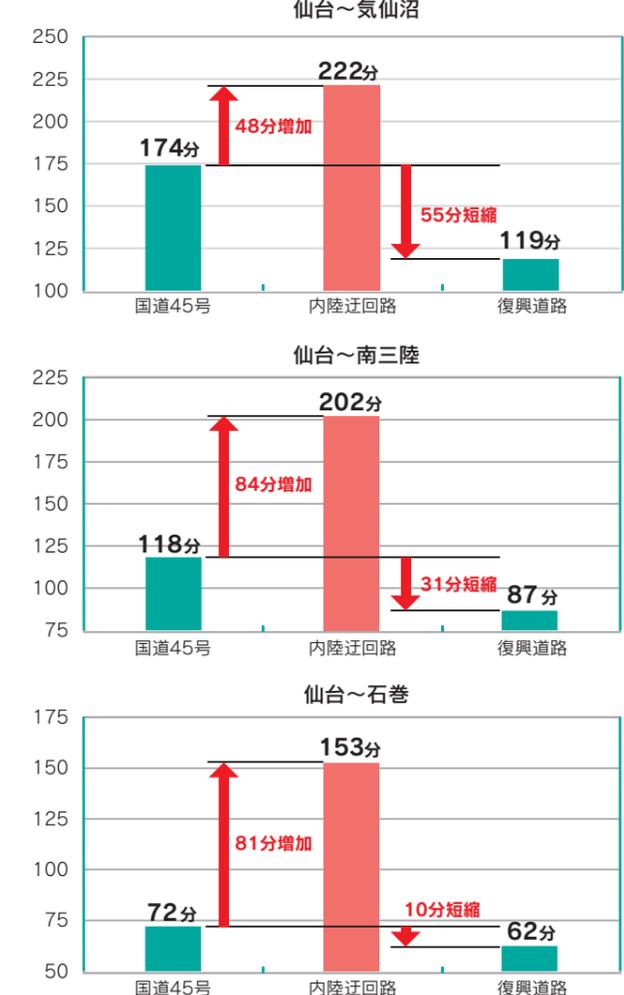
【安全・安心な道を提供するバトロール(歌津北IC~小泉海岸IC)】
写真奥に見える津谷川下流では、震災時、国道45号の小泉大橋が流出し、寸断。

- 三陸沿岸エリアでは、震災時、国道45号が寸断され、内陸部から迂回した救援活動を展開
- 津波浸水域を回避し、アクセスが良い強靱な復興道路は、迅速かつ効率的な救援活動など、三陸沿岸エリアの安心安全なくらしを応援します

震災時のアクセス経路



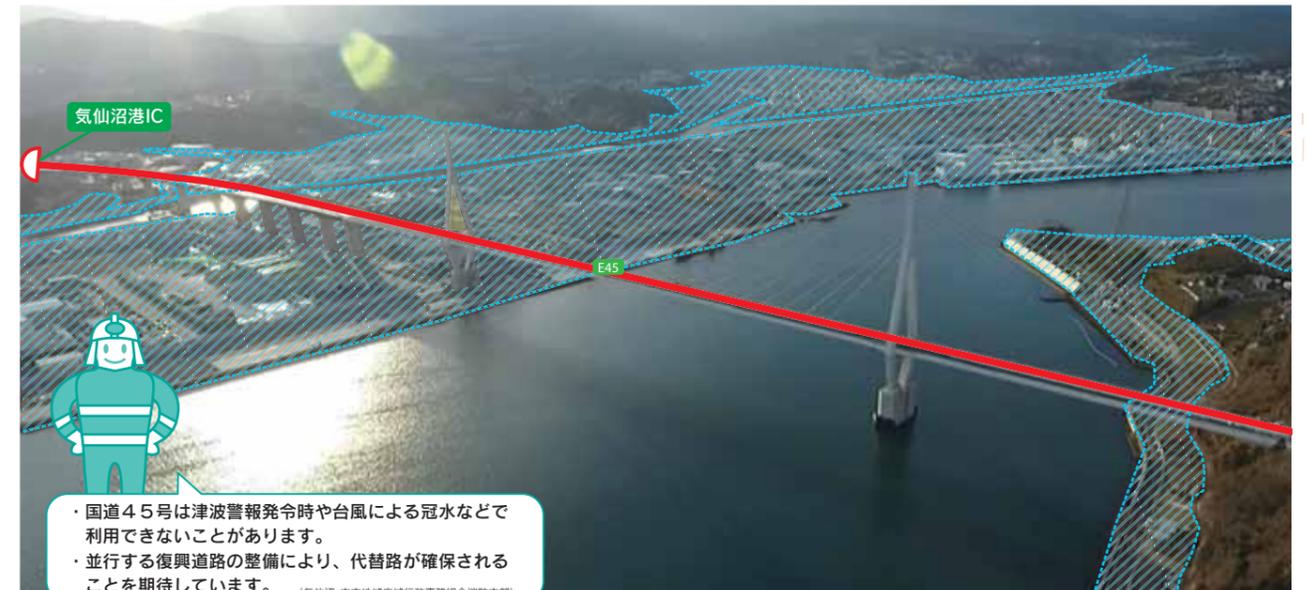
復興道路による所要時間



三陸沿岸道路のルートは、津波浸水域を95%回避



残りの5%は高さのある橋梁で通過



・国道45号は津波警報発令時や台風による冠水などで利用できないことがあります。
・並行する復興道路の整備により、代替路が確保されることを期待しています。
(気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部)

非常時に備え、復興道路へ上がる避難階段を設置



・東松島市では、毎年、大規模地震と津波を想定した総合防災訓練を行っています。
・生命を守るため、一時避難場所である津波避難階段を使った訓練も欠かせません。
(東松島市)

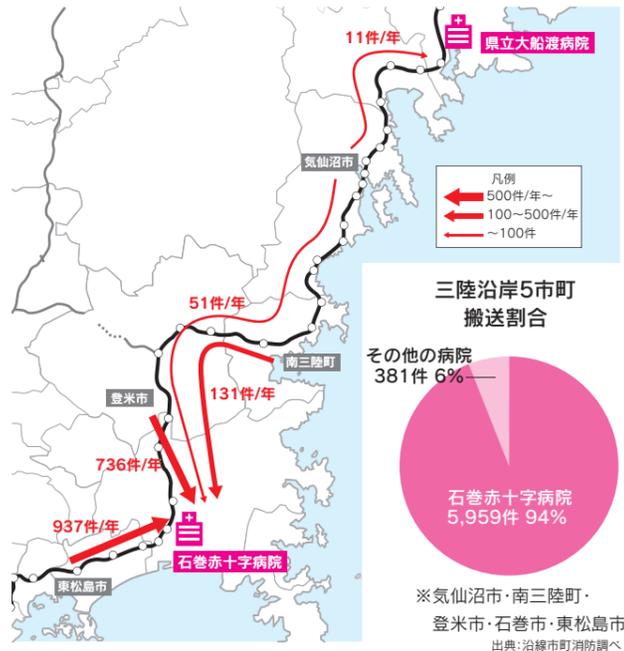
救急医療を応援する復興道路



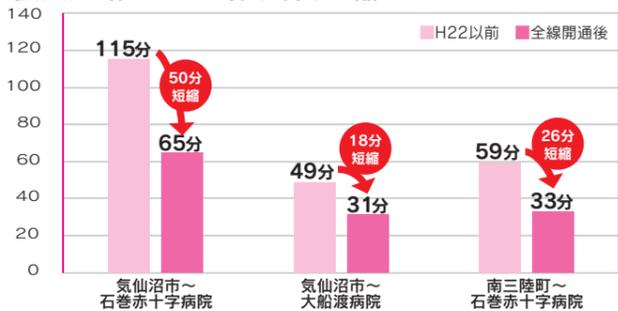
【石巻女川IC直近の石巻赤十字病院への搬送】
石巻・登米・気仙沼医療圏内唯一の三次救急医療機関として、三陸沿岸地域の医療を支える

- 三陸沿岸エリアでは、高次救急搬送の約9割が石巻赤十字病院を利用
- 復興道路は、所要時間短縮や走行安定性の向上により、迅速かつ揺れの少ない搬送など、三陸沿岸エリアの救急医療活動を応援します

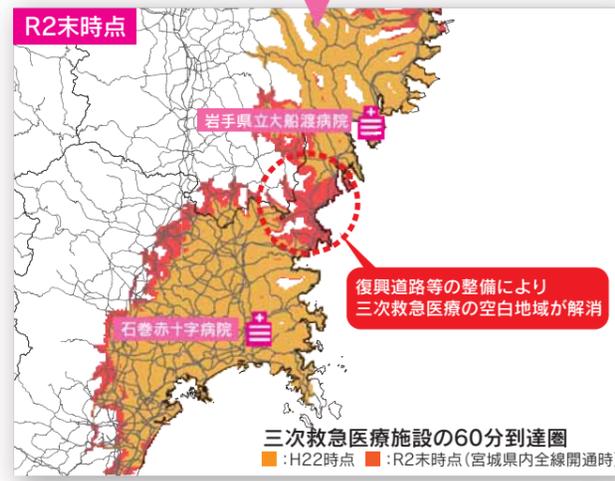
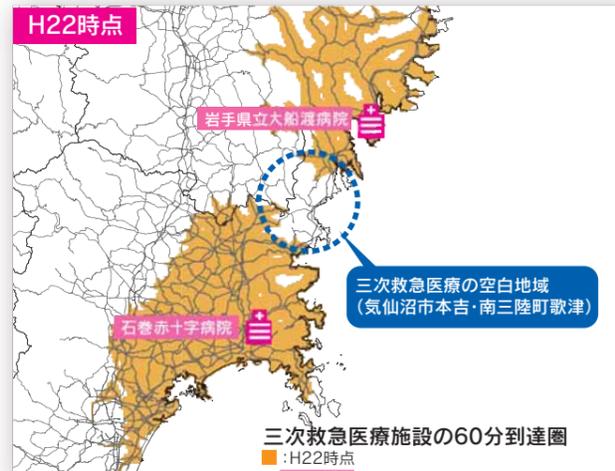
三次医療施設への搬送件数



復興道路による所要時間短縮



三次医療施設の60分到達圏の拡大



復興道路に直結 三次救急医療機関への円滑なアクセスを確保

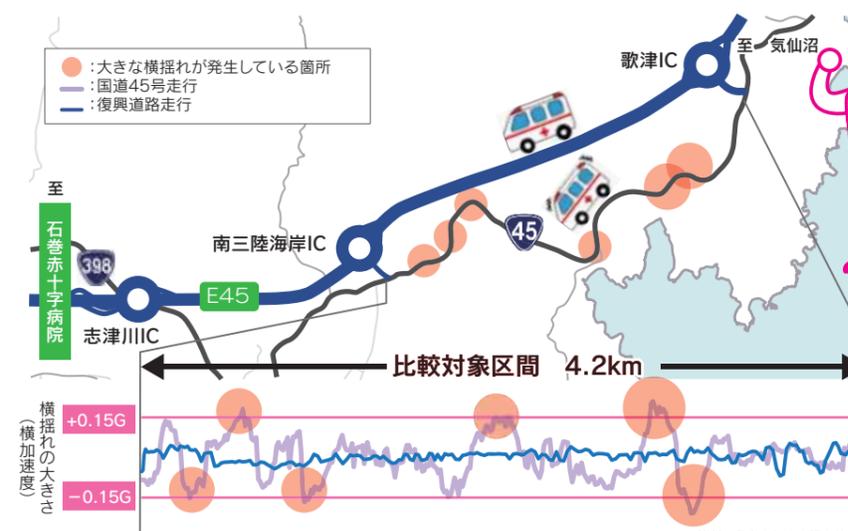
石巻赤十字病院



県立大船渡病院



復興道路により走行性向上 搬送時の横揺れが大幅に軽減



・当院は、気仙沼・本吉圏、登米圏、石巻圏といった広域の救急医療を担っています。
 ・2013年からは、「待っている救えない命を救いたい」という思いから、「ドクターカー」の運用を開始しており、復興道路により、車内でも安定した処置が可能となっています。

資料：H30.8石巻赤十字病院医師ヒアリング結果

ドクターカーとは？



重症傷病者の発生時に医師・看護師が救急現場へ急行し初期治療を行うシステム。救命処置がいち早く行われることにより、救命率の向上や後遺症の軽減が期待される。

・救急搬送では、1分、2分でも時間短縮される効果は大きいです。
 ・復興道路により、搬送の安定性や速達性向上を期待しています。

資料：R2.12気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部ヒアリング結果

高速バスや新幹線、道の駅と連携する復興道路



【新たな高速バス直行便の発券式】
(株)ミヤコーバスでは、2020年11月より、仙台～気仙沼間を最短時間で結ぶ「直行便」を新設。
写真提供：(株)ミヤコーバス

■復興道路は、所要時間短縮や定時性向上などにより、高速バスの利便性向上や貨客混載などの新たな取り組みを応援します

■復興道路沿線に誕生した新たな道の駅と連携し、地域活性化を応援します

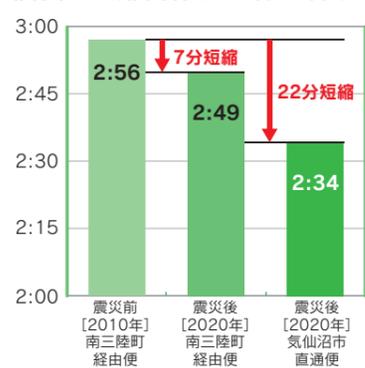
三陸沿岸エリアを結ぶ高速バス便数が1.3倍に

復興道路利用の高速バス便数



復興道路の開通を契機として、仙台～気仙沼の直行便が誕生

仙台～気仙沼便の所要時間の変化



今回の開通を契機に、気仙沼地区のお客様の利便性向上や、将来的な路線発展への先行投資として直行便を新設しました。

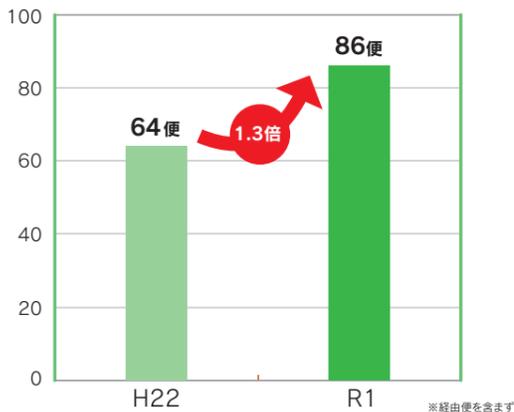


仙台港北IC～桃生豊里ICの4車線化で定時性・安全性が向上

高速バス(仙台～石巻)運行遅れの変化



・4車線化により、高速道路区間ではほとんど遅れがなくなりました。
・さらに、バスの後ろに一般車が連なってしまうこともなくなり、運転の快適性も向上しています。



貨客混載で石巻の鮮魚を東京へ、新幹線や高速バスによる新たな取り組みを、復興道路がアシスト

東北新幹線による貨客混載



・石巻の鮮魚などを、東北新幹線で仙台駅から東京駅へ輸送する取り組みを始めています。
・仙台駅までは各生産者が輸送しており、復興道路は、新幹線へ載せるまでのスムーズな自動車輸送を支えています。

(東日本旅客鉄道(株) 仙台支社)

高速バスによる貨客混載



・石巻の鮮魚などを、高速バスに貨客混載し、首都圏へ輸送しています。
・地域の生産者と連携し、地産品マーケットの拡大を目指していきたいと思っています。

(ジェイアールバス東北(株))



復興道路沿線に、新たな道の駅が誕生

道の駅「大谷海岸」(気仙沼市)



R3.3リニューアルオープン

・復興道路の全線開通と時を同じく、ようやくリニューアルオープンを果たすこととなりました。
・仙台まで1時間45分でアクセスできるようになり、復興道路を使って北から南から、多くのお客様が訪れることになると期待しております。

(道の駅「大谷海岸」 駅長)



道の駅「三滝堂」(登米市)



・人や物の交流が活発になることを期待しています。
・増えていく復興道路を利用する方々にとって、道の駅「三滝堂」が気軽に寄っていただける場所、地域のふれあい処となるように、継続して取り組んでいきたいと思っています。

(道の駅「三滝堂」 駅長)

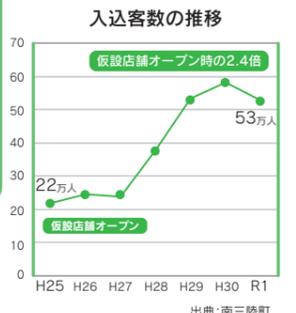


南三陸さんさん商店街(南三陸町にて道の駅登録申請中)



・仙台圏や北東北エリアからアクセス時間が短縮されることで、来訪のきっかけや新たな観光ルート発掘などを期待しています。
・「さんさん商店街」においても、様々な仕掛けや発信をしていきたいと思っています。

(南三陸志津川さんさん商店会 会長)



復興道路・復興支援道路への想い 沿線のリーダーたちの声

日頃より復興道路・復興支援道路沿線におきまして復興を牽引されてきた県知事・市町村長の方々より、
・今後の復興像
・これまでの支援への感謝
について、メッセージを頂きました。



宮城県知事
村井 嘉浩



栗原市長
千葉 健司



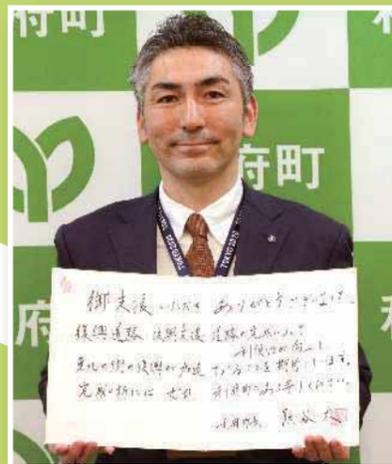
気仙沼市長
菅原 茂



南三陸町長
佐藤 仁



多賀城市長
深谷 晃祐



利府町長
熊谷 大



東松島市長
渥美 巖



登米市長
熊谷 盛廣



女川町長
須田 善明



仙台市長
郡 和子



塩竈市長
佐藤 光樹



松島町長
櫻井 公一



石巻市長
龜山 紘

復興道路 沿線の 100人の声

VOICES 気仙沼市



1 有限会社オイカワデニム
及川 洋

とても早かった10年。色々な事が
ありました。道が繋がることは、経済だけ
ではなく人や命も繋げます。大切に利
用したいです。



2 横浜冷凍株式会社
気仙沼営業所長 関 晋也

復興道路宮城県全線開通の年に新規
工場を稼働します。復興道路とともに
地域活性化に貢献出来ればと願って
おります。



3 株式会社阿部長商店
長牛 雄樹

復興道路を利用することで従来以上
に取引の可能性が広がります。三陸の
魚の美味しさを多くの方に届け地域
活性化に繋がっていきます。



4 気仙沼漁業協同組合
白井 靖

復興道路の完成により、物流のスピー
ド化が図れ、気仙沼の新鮮な魚介類を
全国に届け、多くの人に足を運んでい
ただき味わってもらいたい。



5 株式会社足利本店
足利 宗洋

気仙沼の新鮮な魚の美味しさを、鮮魚
で今まで以上に全国に広めたい。風光
明媚なリアス式海岸沿いの高速道を、
ドライブして欲しい。



6 気仙沼ほてい株式会社
門澤 綾華

復興道路を使って、気仙沼市の特産品
である「ふかひれ製品」を全国各地に
お届け致します!! 食べてみてけら
いん~!



7 一般社団法人気仙沼地域戦略
小松 志大

仙台からの時間距離が一気に短縮し、
観光客増が期待です。日帰りではなく、
泊まって旬の食、地酒、体験を楽しんで
ほしいです。



8 一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会
畠山 雅英

三陸沿岸道路を使って「漁業の街気仙
沼市」に水揚げされる美味しい魚を召
し上がりいらっしやっ下さい。お
待ちしています!



9 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
館長 佐藤 克美

2011年3月11日を忘れないために、
復興道路を利用して、気仙沼市東日本
大震災遺構・伝承館に多くの人が訪れ
てほしいです。



10 気仙沼市役所 産業部
おたけプロジェクト推進 村上 忠大

今春、本市が物語の舞台となるNHK
連続テレビ小説が放送されます。三陸
道を利用して多くのファンが訪れるこ
とを期待しています。



11 東北王子運送株式会社 気仙沼営業所
田中 隆利

10年後、福山通運が outlet してくれ
たから震災復興が進んだと言って頂け
るよう地域一番の運送会社となれる
よう頑張ります。



12 宮城エクスプレス株式会社気仙沼営業所
所長 上山 裕子

震災以前に比べドライバーの負担が
軽減されました。今後も復興道路を
活用し気仙沼の鮮魚を北陸、中京、関西
へ輸送していきます。



13 気仙沼・本吉地域広域行政事務組合気仙沼消防署
千葉 真紀子

移動時間の短縮により救急搬送や災
害対応など、緊急時非常に頼りになる
復興道路。圏域の安心・安全を支えて
くれています。



14 株式会社ミヤコーバス 気仙沼営業所
高速バス運転士 阿部 慎也

仙台と気仙沼の間が本当に近くなり
ました。バスの乗客から喜ばれているの
はもちろん、運転士の疲労度の軽減に
も繋がっています。



15 道の駅大谷海岸
小野寺 正道

仮設店舗で営業してきた道の駅です
が、復興道路の全線開通と同じ時期に
復旧します。市民の地域活性化を期待
する声に応えたい。



16 ぎよつとfm パーソナリティー
志田 淳

港からいろんな物や事が入ってきた
ように、これからは三陸沿岸道路を通
して、新しい事が生まれてくれるとい
うと思っています。



17 気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会
委員長 齋藤 幸枝

長い間、整備促進の要望活動を続け
てきました。私たちの悲願がかなって本
当にうれしく思います。遺出の際に利
用していきます。



18 気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会
委員 鈴木 玲子

復興道路の開通はあらゆる分野で恩
恵を受けています。沿線圏域の発展の
ため、連携し特性や魅力を発信して
いきましょう。



19 気仙沼市役所総務部税務課市民税係
熊谷 福太郎 (今年度20歳)

復興道路ができて、気仙沼市に沢山の
方が訪れることを期待しています!私
もこれから、休日などに利用してい
きたいと思います!



20 気仙沼市役所総務部税務課固定資産税係
佐藤 冬威 (今年度20歳)

復興道路の開通により、遠くの親戚や
友達に会いやすくなりました。災害発
生時も大いに活躍することを期待し
ています。



21 気仙沼市立九条小学校4年1組(鹿折FC)
尾形 夏来 (今年度10歳)

サッカーの試合で松島や石巻によく
行きます。三陸道ができて、帰りに寄
り道できるようになったので、とても
うれしいです。



22 気仙沼市立気仙沼小学校4年1組(面瀬スポ少)
吉田 虎ノ介 (今年度10歳)

ほくはバレーボールのスポ少に入っ
ています。三陸道ができてきたら遠く
の小学校とも試合ができると思うので、
とても楽しみです。

VOICES 南三陸町



23 宮城県漁業協同組合志津川支所
戸倉かき生産部会 後藤 清広

震災から丁度10年!復興道路が全線
開通!新鮮な戸倉こ牡蠣を全国に届
けたい!そして南三陸の大自然を体験
しに来てください!



24 株式会社行場商店
高橋 正宜

震災後10年でここまで整備された三
陸沿岸道路を通るたびに感激してい
ます。仕入に販売に北へ南へ思う存分
使わせていただきます。



25 株式会社及新
代表取締役 及川 孝浩

復興道路は南北に長い道路。目的地に
移動しやすくなりましたが、素通りもし
やすい。目的地となる魅力的な町であ
りますように。



26 株式会社カネキ吉田商店
吉田 浩子

メカブなどの水産物を全国に出荷して
います。道路によって地域の新しい可
能性や会社の採用活動の幅が広がる
と思っています。



27 南三陸ワイナリー株式会社
佐々木 道彦

沢山の方が復興道路を使って支援に
来てくださったお陰で、南三陸町に
ワイナリーが完成しました。ワインと
食を通して、人と人、人と地域をつ
ないていきたいと思っています。



28 ビーンズくらぶ
阿部 恵美子

震災後、多くの出会いで私達の活動
にも変化をもたらしてくれました。女
性が楽しく活動する事で地域を元氣
に出来ると思っています。



29 丸平木材株式会社
小野寺 邦夫

「南三陸杉」を復興道路によって、よ
り迅速にお届けできるようになりました
。地域の復興のその先の為にも、「大
切な繋がり」を結ぶ道です!



30 新みやぎ農業協同組合
南三陸地区本部長 高橋 澄

かつて陸の孤島といわれた地域が、
復興道路開通によって、気軽に訪れる
場所となった。人や物の交流が大きく
拡大することを切に願う。



31 南三陸志津川さんさん商店会 会長 山内 大輔

震災から10年、仮設店舗時代から今に至るまで多くの方にご来場いただき大変感謝です。今後とも町の重要拠点の一つとしての自覚を持ち続けて頑張っていきたいと思ひます。



32 南三陸ハマレ歌津 マルアラ株式会社及川商店 及川 吉則

復興道路が私達の生活を劇的に変えました。住み良くなった南三陸町から震災からの復興と交流へと繋ぎ元気を発信し続けます！



33 南三陸ホテル観洋 昆野 守裕

多くの方が三陸道を利用して弊社の震災伝承施設の「高野会館」「命のらせん階段」を訪れ防災減災の意識を高めていただきたい。



34 民宿下道荘 菅原 さやか

南三陸町は、海の幸、山の幸、自然に恵まれた町なので、単なる通過点としてではなく、滞在して観光を楽しんでもらいたいです。



48 みやぎ北上商工会 斎藤 紀弘

日々気仙沼、登米を往復しています。地域にとって念願の道路でした。これを機に今後更に活気づくことを心から願っています。



49 登米市消防本部 登米市消防長 鈴木 秀彦

医療機関への救急搬送時間が短縮し、傷病者の負担が軽減。大規模災害発生時でも確実に通行できる地域の頼れるライフラインです。



50 株式会社みやぎ東和開発公社 道の駅三滝堂 猪股 浩美

登米市と南三陸町の境界に近い東和町米谷。内陸と沿岸部の接続点となり登米市の総合的な観光窓口として地域の魅力を伝えたい。



51 道の駅津山もくもくランド 西條 孝一

復興道路は震災後に重要な役割を果たしています。幹線道路の整備も要望しつつ、今後も皆様と連携し地域発展に努めてまいります。



35 南三陸復興ダコの会 大森 丈広

震災後、地元に戻り、アウトバス君のデザインなど、自分のしたかった仕事ができている、さらに活動を充実させていきたいです。

復興道路 沿線の 100人の声



36 一般社団法人南三陸町観光協会 菅原 きえ

復興道路を利用し県内外からの観光客、教育旅行の学生団体に来訪いただいています。今後さらに南三陸の魅力を発信し続けます！



52 登米市役所建設部建設総務課 関場 日向(今年度20歳)

復興道路を利用することにより、各地域間のアクセスがしやすくなるので、利用者にはぜひ登米市を訪れて欲しいです。



53 登米市立豊里小学校 西田 咲希(今年度10歳)

大切な命や物を失った人も多く震災のことを忘れてはいけないけれど、復興道路と共に新しい希望がもっと増えていって欲しいです。



54 登米市立浅水小学校4年 高橋 漣(今年度10歳)

しんさいの年に生まれたほくは、10才になりました。家から見えるふっこう道路で、大好きな釣りや色んな所にお出かけしたいです。



37 南三陸商工会

地域の想いと、それに応えて力を尽くして頂いた大勢の人々に心より感謝いたします。地域間交流が、より活性化しますように！



38 南三陸町商工会女性部 部長 千葉 淑子

命の道路から復興道路として陳情を重ねた先輩達の願いが叶い喜びにたえません。観光産業の発展により明るい未来を期待します。



39 東北工業大学 阿部 夏実(今年度20歳)

町の風景も自分の心もこの10年で大きく変化しました。10年後さらに良いと思えるように日々変化し成長していきたいと思ひます。



40 南三陸消防署 木皿 和輝(今年度20歳)

仙台方面へかかる時間がだいぶ短縮された。復興、さらなる発展への足がかりとなってほしい。



55 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 代表理事 阿部勝太

復興道路が全線繋がり、全国へ向けて三陸の美味しい海産物をお届けしやすくなりました。我々は次世代へ漁業を繋いでいきます！



56 石巻かきブランド化事業委員会 阿部 晃佳

宮城・岩手三陸沿岸で、日本中の牡蠣好きが集まるイベントを開催し、復興道路を観光客と牡蠣生産地の架け橋にしたい。



57 株式会社海遊 代表取締役 伊藤 浩光

復興道路を使用する事により三陸沿岸の朝どれ魚介類や鮮魚等を仙台市内及び新幹線便等への直配送に無くしてはならない道路です。



58 石巻魚市場株式会社 代表取締役社長 佐々木 茂樹

産業の活性化に弾みがつくと期待しています。会社としては、物流の効率化・迅速化を見すえた経営方針のもと事業を展開して行きたい。



41 南三陸町立伊里前小学校4年 阿部 希成(今年度10歳)

復興道路を使って南三陸町にたくさんの人に遊びに来て欲しいです。スポーツの交流も盛んになればいいなと思ひます。



42 南三陸町立志津川小学校4年1組 千葉 百花(今年度10歳)

友達をいっぱい作って、楽しめる場所や美味しい食べ物がある店がもっと増え、みんなに遊びに来てもらえる南三陸町になればいいな。



43 株式会社石ノ森農場 山内 健太郎

全国にお米と野菜を運んでもらえるようになりました。これからも安全で美味しい農産物を作り続け皆様にお届けいたします。



59 一般社団法人鮎川まちづくり協会 代表理事 齋藤 富嗣

四季折々の景色が楽しめる牡鹿半島へのアクセスが良くなり、捕鯨文化の衣食住を伝えるホエールタウンおしかも見所のひとつです。



60 一般社団法人イシノマキ・ファーム 代表理事 高橋 由佳

農を通じて多様な人々が豊かに暮らすまちづくりを目指しながら、地域に点在する資源の価値をつなぎ伝えていきたい。



61 いしのまき農業協同組合 代表理事組合長 松川 孝行

「生産者の思いを込めた仙台牛を皆さまのもとへ」。私たちJAでは、生産者が手掛けた安全で安心な食をこれからもお届けします！



62 石巻観光ボランティア協会 斎藤 敏子

道路ネットワークで産業や観光の活性化が拡がり遠方より訪れる人々が多くなってきました。震災が風化しないよう伝えていきたい。



44 株式会社日高見牧場 代表取締役 佐藤 健

復興道路ができて、仙台や首都圏への肉牛の輸送がスムーズにできています。輸送時間も短くなりました。



45 みやぎ登米農業協同組合 代表理事組合長 佐野 和夫

復興道路で、JAの農畜産物が更に新鮮な状態で、消費者にご提供出来る様になりました。そして、魅力ある登米市へ是非来て下さい。



46 一般社団法人登米市観光物産協会 会長 猪股 育夫

近くて遠かった三陸沿岸の町々がやっと一本の線で繋がります。観光や文化交流など素晴らしいことが起きることを期待します。



47 エスファクトリー東北株式会社 川越 茂生

物流に欠かせない復興道路は登米市進出の決め手の一つでした。社員募集地域も広がり、10年後には地域貢献できる企業になります。



63 株式会社エヌエス機器 代表取締役 阿部 秀敏

航空機ジェットエンジン部品の納品のため毎日相馬一石巻間を往復しています。移動の時間が短縮され効率よく仕事が出来、感謝です。



64 日本製紙株式会社 石巻工場 村上 義勝

震災で失ったものは、余りにも大きすぎたが道路復興により未来が見える。それは資材・製品を運び地域が潤う社会が見える。



65 石巻商工会議所 会頭 青木 八州

震災から10年を迎え、三陸沿岸道路で首都圏と被災地域が直結され、さらに「物の交流が活発になることを期待しております。



66 日本赤十字社石巻赤十字病院救命救急センター 救命救急センター長 小林 道生

患者さん搬送時間とドクターカー一現場到着までの時間の短縮につながっています。より早く、より安全に医療にたどり着ける道です。



67 石巻地区広域行政事務組合消防本部 杉浦 大樹

1秒を争う災害現場への迅速な出動に役立っています。これからも救命の架け橋「復興道路」を活用し地域住民の生命を守ります。



68 株式会社かほく・上品の郷 道の駅 上品の郷 代表取締役 末永 佑工

高速化が進み石巻がすぐ近くに！新鮮な野菜、地元の特産品を皆さんに。運転で疲れたら、ふたごの湯で一休み。



69 石巻役所都市計画課 阿部 光樹(今年度20歳)

復興道路ができたことで、交通の便が良くなるので、色々な地域を巡り、各地の魅力を味わってみたいです。



70 石巻役所介護保険課 千葉 孝則(今年度20歳)

震災では、私自身も被災し、災害の恐ろしさを思い知りました。そんな苦難に負けない前向きな姿勢で、これからも頑張りたいです。



83 宮城県漁業協同組合矢本支所 相澤 太

三陸沿岸道路の開通に伴い、水産業の現場視察や生産者交流が行いやすくなり、今後の更なる発展に役立てたいと思います。



84 株式会社ルーチェ 伊藤 美奈子

地方の隠れた製品を使用した発泡性のお酒を開発！生産者を応援し、日本の美味しい魅力を世界中に伝えることを目指しています。



85 株式会社イグナルファーム 佐藤 雄則

復興道路が完成し便利になりました。当社の観光いちご農園に是非いらしてください。東松島市には美味しい食べ物がいっぱいです。



86 宮城県東松島市役所防災課(東松島市震災復興伝承館) 小林 勇

東日本大震災から10年、10年前は物資や人を運んで被災地をこの道は助けてくれました。これからは未来へと続く道です。



71 石巻市立山下小学校4年 遠藤 真瑠(今年度10歳)

震災後、道路が通れず不便でしたが、石巻から祖母のいる大槌まで三陸道がつながり早く安全に行けるので、沢山遊びたいです。

復興道路 沿線の100人の声



72 石巻市立中里小学校4年 小野 亜子(今年度10歳)

復興道路を利用して、家族みんなで、行ったことのない街や景色がきれいなところに行ってみみたいです！



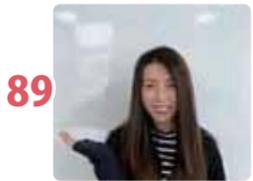
87 一般社団法人東松島みらいとし機構 大谷 直也

美しい景観と素晴らしい特産品が点在する東北は発展途上です。復興道路のように各地と繋がって輝かしい次の10年へ、共に！



88 KIBOTCHA 三井 紀代子

SDGs推進都市東松島として、持続可能に安心して住み続けられる町づくりの一環を担える施設としてあり続けたいと思っています。



89 東松島市観光物産協会 佐々木 真巳

三陸沿岸道路開通にあたり地域の観光の促進や発展に繋がることを期待しています。是非、東松島市へ遊びに来て下さいね。



90 幸満つる郷 KDDIエボルバ 野蒜 満江 健太郎

野蒜から従業員みんなで力を合わせ想いを込めて作った美味しい野菜をお届けします！！

VOICES 女川町



73 株式会社鮮冷 岡 明彦

「海」を身近に感じる事が出来る女川町。訪れた人に精一杯おもてなしをして女川ファンをどんどん増やしてゆきたいです。



74 株式会社女川魚市場 加藤 寛

東日本から10年、復興が進みすべての方に感謝を申し上げます。復興道路の完成により、業界の前進と観光にも多めに期待します。



75 一般社団法人女川町観光協会 事務局長 遠藤 瑠磨

女川町への移動時間が短縮され、県内外から大変来やすくなりました。震災から新しいスタートが始まった町をぜひ訪れてください。



91 株式会社マル翔水産 三浦 優我(今年度20歳)

生まれ育った東松島市で海苔養殖業に携わっています。復興道路を利用してこちらに来た際は、是非海苔を味わって欲しいです。



92 大学生 尾形 隼輔(今年度20歳)

震災当時は10歳。今では運転免許を取得し、綺麗に整備された道路に運転する楽しさを感じています。これから地域復興に貢献したいです。



93 東松島市立宮野森小学校4年 鈴木 結里愛(今年度10歳)

東松島の名産品について勉強したので、復興道路でたくさんのお客さんに来てもらって、ふるさとの海苔や牡蠣のことを教えてあげたいです。



94 東松島市立矢本東小学校4年 三浦 望愛(今年度10歳)

普段からよく利用する復興道路の背景には、震災があることを学びました。10年後は宮城で、たくさんの人を助ける看護師になりたいです。



76 女川みらい創造株式会社 シーバルビア女川 代表取締役社長 阿部 喜英

新鮮な魚介類を堪能でき、手作り石鹸や色鮮やかなスペインタイル等のお土産も充実！ぜひ女川町に遊びに来て下さい！



77 女川町商工会 会長 高橋 正典

復興道路の完成により三陸沿岸地域への人流の活発化が期待されますので、女川町の地域振興の活性化に寄与して参ります。



78 女川フューチャーセンターCamass 岩部 莉奈

町に訪れる人が増え、町内外の方々が交流し、地域をより良くする取り組みがさらに生まれる未来を目指します。



79 女川町役場 武山 龍平(今年度20歳)

復興道路を使って、より多くの方に女川町を訪れていただき、おいしい海産物や美しい海を楽しんで欲しいと思います。

VOICES その他



95 公益社団法人 宮城県トラック協会 会長 庄子清一

被災地を走る大動脈「復興道路」が県内全区間開通により沿岸被災地の復興・創生の大きな力となるよう、ご祈念申し上げます。



96 公益社団法人宮城県バス協会 専務理事 木村 和博

沢山の笑顔に乗せて復興道路をバスが颯爽と走っています。復興道路が被災地やバス業界の活性化に繋がることに期待しております。



97 一般社団法人宮城県タクシー協会 会長 池田 憲彦

沿岸部のスムーズな移動が可能となり観光客の増加が期待されます。タクシー業界も公共の足として今後も地域に貢献して参ります。



80 石巻デンタルクリニック 永沼 真優(今年度20歳)

震災から10年、町もだいぶ復興し、今まで通りの賑わいを取り戻しつつあります。これからも観光客が溢れる町になってほしい。



81 女川町立女川小学校 木村 美桜(今年度10歳)

ネイリストになってたくさんの人を笑顔にしたいです。復興道路を使って多くの人にお店にきてほしいです。



82 女川町立女川小学校 新妻 真陽(今年度10歳)

僕の故郷の女川町は、サンマやホヤが有名です。完成した復興道路を使って女川町の特産品を全国の人に食べてもらいたいです。

VOICES 東松島市



98 一般社団法人 宮城県レンタカー協会 会長 櫻井 新一

東北を訪れる多くの方に安心・安全なレンタカーと復興道路を利用して頂き、各地の魅力を満喫して頂きたいです。



99 一般社団法人東北観光推進機構 専務理事推進本部長 紺野 純一

4月からの東北アステーションキャンペーンにおいて三陸沿岸道路を活用した東北広域周遊を促進し、観光復興に取り組みます。

VOICES あなたも声を書きませんか

100 写真

お名前

コメント